

特257

975

昭和八年二月

スキー遭難事件記録

金澤辯護士全員協議會



始



持 251
975

スキー遭難事件記録

昭和八年一月三十日の各新聞紙は一齊に前日即ち二十九日石川縣体育協會及鶴來町共同主催の下に石川縣石川郡鶴來スキー場に於て行はれた全日本スキー選手権大會近縣スキー競技大會が少年部の十八軒競走に於て縣立二中生木谷清金君市立工業生小西芳信同井關與子男兩君の三名の遭難者を出したことを報じた。

右は我國に於ても未曾有なスキー競技に意外に多數の犠牲者を出した事然も主催者が縣体育協會であつたことが一般社會の耳目を聳動し重大なる社會問題として異常なセンセーションを捲き起した。世人は齊しく事件の真相を確め責任の歸屬が何れにありやを知らんと欲した。依て事件發生以來の經過を記述するに代へ當時の新聞記事を抜萃して見やう。

昭和八年一月三十日北國新聞掲載

今冬最初の痛しい犠牲市立工業生二名スキー競走中遭難金澤二中生一名行方不明昨日近縣大會の鶴來で

廿九日午前九時から鶴來スキー場で行はれた全日本スキー選手権大會第四回近縣スキー競技大會で十八キロ少年部競走選手廿六名が折柄の猛吹雪を衝いてスキー場を出發し、後谷、獅子吼に向つたところ午後四時に至るも右のうち十名が歸着せぬのでその安否を氣つかはれてゐた折柄堂小屋の監視人より六名の選手が俄と寒さに慄えへつになつて避難して來たから急遽食糧を携え救援されたいと急報して來たので主催者石川縣体育協會および鶴來町体協では驚愕し直に救援隊を出發させ十名のうち六名は間もなく無事なこと發見したが他の四名即ち金澤市立工業生小西芳信、同井關與子男、金澤二中生木谷清金、金商生林忠男の行方全く不明なので茲に四名の遭難したことを判明しその生死すこぶる憂慮されるにいたつたので全力をあげ捜査につとめた。

二中の木谷清金君今晚は未発見危く金商林君救はる

最初行方不明を傳へられたのは△金一中國部昌清、長瀬武、張江武△金二中木谷清金、木谷清喜貞△市立工業小西芳信、井關與子男、柚木實△金澤商業林忠男、西原雅の十名でこのうち柚木、長瀬、張江の三名は午後六時頃吹雪の中を辛うじて鶴來スキー場に到着したが林は午後二時半文字山附近の杉の林の中で疲勞と空腹から吹雪に倒され喪心、死に瀕してゐるところへ後から来た一中生國部昌清がこれを発見、レースを中止し一生懸命に種々の方法で看護してゐるのを午後六時半頃になつて捜索隊が発見し辛うじて兩名とも救ひ出し林は漸く一命を取り止め小西芳信、井關與子男の兩名は第二關門と第三關門の中央で同じく吹雪に堪えず落伍してゐるのを金商西原、二中木谷清喜貞の兩名が発見、急を告げ救出に向つたが遂に凍死し二中木谷清金は出發以來行方不明で卅日午前三時に至るも発見せぬ。

五尺の雪を枕に互ひに名を呼び合つて瀕死の二人、懸て眠る

行方不明の市立工業學校土木四年生金澤市小立野新町小西芳信、同建築四年生石川郡野々市町井關與子男の兩名捜査の鶴來スキー俱樂部學校關係者、人夫の一隊十數名は吹雪を冒して遭難箇所と覺しき處を探索の結果午後五時頃石川郡内川村地籍尻高と獅子吼谷の間の尾根競走第二關門と第三關門（第三關門から約一キロ半）の間のコースから約二間の崖下に轉落、空腹と寒氣と極度の疲勞に五尺餘の雪を枕に約廿米ばかり離れてブツ倒れ「小西ッ」「井關ッ」と吹雪の中に互に名前を呼び合ひ勵ましてゐるが兩名とも氣力を喪ひ井關は轉落の際負傷したのか口から出血し小西は離木にもたれたまゝ降り積む雪の中に死に瀕してゐるのを捜査隊の一行が発見し直ちに人工呼吸その他應急手當を加へ下山せんとしたが既におそく兩名とも間もなく絶命したことが午後七時十五分捜査隊より派遣された人夫が鶴來スキー場の捜査本部へもたらしたので捜査本部では大いに驚愕したが取敢ず死体搬出下山することになつたが遭難現場は競走コース中だが死体を背負へば四尺あまりも雪にはまつて動けずその上捜査隊一行も食糧なく空腹を覺えてゐるので一行からの要求により食糧、松明および死体搬出の櫓を送つたので井關君の死体は今晚三時河内村字石切小原石野區長方に運び込まれた。

兩君を介抱して救助に盡した金商西原君談

捜査隊に加はつて小西、井關の救助に努めた金商西原君は歸宅後當時の模様を語る物凄く吹雪を衝いて第二關門から第三關門へ向ふ途中雪中に市立工業の生徒二人が倒れてゐたので直ちに第三關門の係りの人に通知し二中の木谷清喜貞君および關門の係りの人ら五、六名で救助に出かけた時は小西君は離木に身体をもたせ、井關君は雪の中に首を突つ込んでゐたので目を開いてゐる小西君を「オーイ」と呼ぶと其時は返事をしたがすぐ眠りかゝつたので、みんなで名前を呼びながら二人の身体をこすり離木をたいて暖をとらせやうとしたがうまく行かず僕と木谷君が第三關門から薪を取つてきて暖をとり初めは充分よくなりかけたがとうとう駄目だつたとて寒い目で僕らはみな顔から水柱がさがつてゐた。

猛烈な吹雪に目標を奪はれて寒氣と空腹に進退を失ふ遭難の原因は

選手權大會で遭難することとは殆ど稀有のことであるが當日は出發後途中で猛烈な吹雪に遭遇したため練習不足に加へ空腹と疲勞および寒氣のため忽ち進退の自由を失ひしかも折柄の雪に目標とされてゐた途中の旗が雪のため埋まれ或は吹き千切られて遂に途を迷ふに至つたものらしく救助された遭難者は何れも鶴來に收容後醫師の手當をうけたが何れも輕症であつた。

小西君一縷の望み醫師を迎へ野天で手當に力む

卅日午前二時五十分市立工業井關、小西兩君の死体は八幡（鶴來スキー場から五町）まで捜査隊の一行によつて搬出され小西君の死体は早速駆けつけた父仁三郎氏が變りはてた愛兒をしつかりと背負ひ井關君の死体は消防手が背負つてきたが小西君の父君から小西君は「なほ腹部に暖か味があり生き返る見込があるので目下搬出途中野天ながら藁で小西君の全身をおほひ目下焚火で暖を取りつゝあるから至急醫者を寄越してくれ」といつてきたので會場にある小西君の親戚及び小立野新町の有志らは直に金澤醫大大里内科より藤本醫師を迎へ同醫師は注射器藥品等を携へ午前三時現場に向つたが今晚四時までは情報を得

ない。

木谷君絶望？ 捜査隊空しく引揚ぐ

夜に入り遭難地一帯はますます猛烈な吹雪で捜査隊にわかれた捜査隊の一行も積む雪のため木谷清金君の行方はさらに判明せず。廿九日午後二時半頃から十二時間餘を経、今や殆ど生存の見込みがないので捜査隊一同は卅日午前三時一まつ木谷君の捜査を打ち切り今卅日さらに死体捜査隊を出すことになった。

誠に申譯ない社會教育課長と辻學務部長交々語る

凍死二名、行方不明一名を出した昨日のスキー競技の主催者として村田縣社會教育課長は語る。

誠に申譯のないことをして何とも申上げやうがありません、この上は一刻も早く死体を搬出するのが死者に對する禮であると同時に体育協會では従來スキー競技會において負傷者を出したことは時々あるが死者を出したことは今度が始めてせう、誠に相濟まぬ次第です。

また辻學務部長は

何れ歸つた上知事と協議し適當の方法で死者の靈を慰めたい。
と跡始末について語つた。

救助美談レースを捨て、瀕死の金商林君を救ふ卅分発見が遅れたら一大事金一中園部昌清君

十八キロ選手として出場し遭難選手の救助に努め自分のレースを捨てた金澤一中生園部昌清君は歸着すると共に元氣で語る。十八キロレースに僕は六十九番として最後に出發した、コースには關門が三ヶ所あるが、第二、第三關門のは山が深く

困難なところでした。第一、第二關門間で市立工業生に逢つたがひどそうだったので「しつかりして一緒に行かう」と一緒に歩いたが、甘間位行つてから「先に行け」といふので僕は先になつた、そして山の高所に着いて後を見ると倒れてゐたので喚いたが返事なく、あとから誰か来ると思つて先へ進み第二關門の人に倒れてゐることを告げたところ承知したと答へてゐた、第二關門を行くと商業二中の二人に逢ひコースが判らないので目標見當で互に勵まし合ひながら第三關門まで行つた、頂上近くからは風が強くて困難したが第三關門で握り飯を喰つて元氣を出し頑張つて行くと五十キロの選手に逢つた、到着點まで約一キロの箇所に来た時商業の林君が杉林に寄りかかり眠つてゐたので「起きろ」と首を持つて揺つたが眠つてゐた。背中を毆つても目を利かぬので僕は元氣一杯だつたがレースを思ひ止まり介抱することにした、そこへ青年部のレーサーが来たので急報を頼み介抱してゐるとだん／＼凍傷が頸部、手足に現はれ出し立たせても座つてしまつた、廿分ほど過ぎてから霧が晴れたので見るとスキー場の上なので大聲でわめいた、一時間位待つたがその間に杖で背を打つてゐると一寸元氣を出し「僕は駄目だ死ぬ」といつてゐた、自分も薄いユニホーム一枚で寒くて堪まらなかつた、そのうちに下から一中生三名に續いて救護班三人も来て漸く命を取り止めた。僕の発見がもう半時間後だつたら死んでゐたかもしれない、遭難の原因としては雪が深くてゴボつたこと、猛烈な吹雪のためでせう、これまで山の中で僕はあんな恐ろしい猛吹雪に遭つたことはありません、吹雪ははじめたのは出發後だから廿番位までは大丈夫だつたでせう、一番は十時半に出發し、それから十分置きに出發し僕が最後で十一時すぎでした、全く空腹と凍傷のため犠牲者を出すに至つたものでせう。

悲報に驚く家族―三遭難者宅訪問

縣体協主催に安心してゐた朝は喜び勇んで出掛けたにこゝ小西君の長兄力なく語る

小西芳信(二三)君の實家金澤市小立野新町では家族は泣き伏し實父仁三郎氏次兄良二、外喜男の三名が鶴來に急行してゐたが長兄直秀君は力なく語る。

「全く驚きのあまりに何にもいふ言葉を知りません、昨日も鶴來へ練習に行つて夜遅く歸り今朝(廿九日)は見事に勝つて

來ると元氣一杯で出掛けたようでした、スキーは小學生時代から得意で好きでした、縣体協主催の大會だからすべてに安心してゐたのがこんなことにならうとは何としたこととせう、芳信は四男で我々兄弟の中でも一番温順で体格も強かつた大事な子でした——こうなると猶さら可愛さが増します。」

勝利を意氣込んで出かけて此始末絶望を傳ふ木谷君一家の嘆き

遭難行方不明中で殆ど絶望とみられてゐる金澤二中一年生木谷清金(一六)君の自宅金澤市古寺町煉瓦製造業木谷清喜男方では兄の清喜男君が鶴來に急行し次兄清喜貞(一七)君と共に捜査してゐるが實母ふで(五〇)さんを始め親類の者相集まり打沈みながら語る。

「清金は五番目の子で小學生時代からスキーが好きでした、スキーを始めてから五、六年もたつてせうが兄弟みながスキー好きで三番目の兄も二中時代に信州にあつたスキー大會に出席したのが因で風邪を引込み亡くなつたのです、今度の長距離出場も自分から希望して出たもので連日練習し勝利を意氣込んでゐたのでしたに……私たちとしては縣体協主催のスキー大會でこんなことにならうとは豫想もしなかつたことで遺憾に堪へません」

湯まで沸して歸りを待つた愕然と語る井關君の家スポーツは何でも

犠牲者井關與子男(二〇)君の實家石川郡野々市町荒町に悲報をもたらせば實父信次氏(五一)母たみ(四五)は初めて遭難を知り愕然として語つた。

それは本當ですか、さき程遭難と聞いてから胸騒ぎがしてなりませんでしたが(廿九日朝)出て行くとき特に念入りに注意してゐたのに——あの子は小學校の時から身体も達者で勉強も出来、市立工業へ入つても二三番を下つたことはなかつたのです、運動はスキーはもとより剣道、柔道、水泳、競技なんでもやり時々優勝して來るので運動に對してはあまり干渉もせず、けふも見事に優勝して歸つて來るものと一日、晩御飯も食べ湯を沸かして待つてゐたのです。あの子は好きな運

動の犠牲になつて死んだので本望かも知れませんが、家のものはどうしてもあきらめられません、死んだとは思へません。と悲嘆に暮れたが實父信次氏および附近民は鶴來に急行した。

昭和八年一月三十日北陸毎日新聞掲載

鶴來のスキー大會で十一名の學生等遭難二名絶命し一名は行衛不明吹雪中を大會稀有の慘事

全日本スキー選手権大會石川縣豫選並に第四回近縣スキー競技大會は二十九日午前九時から石川縣鶴來スキー場で開會されたが、第二高女を始め縣下の女性スキーヤー多數の参加もあり、参加選手百五十名を越へ盛況を極めたが終日猛烈な降雪に時折風をさへ交へた悪天候は参加各選手のプレイを著しく阻害したものと、如くで、中でも午前十時廿分同スキー場を出發した十八キロ少年組長距離競争は最も之に害はれ同競技出場選手一中園部、張江、長瀬、二中木谷兄弟、金商西出、西原、林、市立工業柚木、井關、小西の十一選手は午後三時を過ぎるも歸來せず、案せられて折柄白山スキー倶楽部員である若林及び笠置兩選手が今第三關門を過ぎて文字山頂附近にさしかゝつたところで金商生林選手が凍傷を起し、降雪中にぶつ倒れてゐるから至急救援隊を頼むといふ急報を齎したので俄然同スキー場主催者側では色めき直り直に鶴來体協スキー部員六名を以て第一救援隊を組織し食糧其他を携行して現場に急行した、それと共に他の十名の消息不明者に對しては西園委員長指揮して更に二班の救援隊をつくり後谷間道を進む一隊と獅子吼半に出る道へ派遣し尚十八キロコースの最初から最後までを一巡する捜査班をも送つたが、それにより柚木、張江、長瀬の三名は午後四時半頃同スキー場へ辿り着き又園部、西出は五時過ぎに林、木谷兄、西原は六時過ぎ何れも空腹と寒氣に極度の疲勞をしてゐたにもかゝらば救護されてスキー場休憩所へ歸着した然るに市立工業生小西芳信、井關與子男、二中生木谷清金の三選手は遂に消息なく第二關門は何れも通過したので第二關門と第三關門との間に於て何れも遭難してゐることは判明したが、午後七時に至るも手掛なくスキー場は全く暗澹たる空氣に満たされ休憩所は救護本部、捜査本部と化し白雪上に大篝火をたいて位置を示して各方面の情報を持ち寄る等悲壯な情景を呈してゐたが、同七時十九分に至り遂に捜査隊員によつて市立工業生井關、小西兩選手は山中に於て絶命し二中生木谷(弟)は生命危篤とい

ふ悲痛な情報が本部に入り一同落膽せしめた、この騒ぎによつて午後の部のリレー競技は豫定より二時間遅れ四時半にやうやくスタートしたが、その頃から暮色場内に垂れて同六時には四高の最終リレー長田信選手がゴールに入らぬのに閉會式を上げて當日の男子部優勝者金澤中學チーム及び女子部第二高女チームに對し優勝旗を授與した、しかるにゴールに入らなかつた四高生長田選手は七時半に至るも歸着せずこれまた消息が案ぜらるゝに至り又々同選手の捜査を開始したが、この日の大會に於いて本縣としては未曾有の雪の犠牲者を出した。

雪に埋もれ瀕死の小西、井關兩片を發見手當の甲斐なく絶命す木谷君未だ生死不明

(郷來電話) 右遭難學生捜査の爲め第一關門及び第二關門を経てコースに隨ひ鋭意捜査を繼續した捜査隊の人十六人は午後四時過ぎ第二關門を去る約二キロの地點獅子吼谷に於て二中一年生木谷清金の遭難しあるを發見したものと如くであるが捜査隊は更に不明の市立工業四年生小西芳信、井關與子男の兩名をたづねて後高に向け出發、前記地點を去る尙一キロの地點石川郡河内村字白山地内獅子吼平に於て兩名共白雪に埋つもれ人事不省に陥り居るを發見するに至り中二名は直に下山の途に就き午後七時十五分右の報を齎したが一方殘餘の捜査隊員一同は現場に於て協力し焚火を行つて暖を與へると共に人工呼吸を施し、大聲をあげて兩名の名を大呼した結果、かすかに半眼を開き何事か口中でつぶやいたが午後六時遂に絶命するに至つた、斯くて屍体は六臺のスキーを以て獲様の物を作り之に依つて運搬を開始したが流石カンジキを着用した人夫の一隊も胸の邊り迄も積雪中に没する有様で(本稿到着の)午後八時半に至るも未だ運搬の目星着かぬ有様で一同飢餓と寒氣と闘ひつゝ、非常な難行を續けて居た。

上山地方課長が一旦木谷君を發見引返し救護に來る間に惜しや遂に見失ふ

生命危篤の二中生木谷清金(一五)選手が第二關門と第三關門とのコース中で遭難してゐる時計らずも上山地方課長がその現場をスキーで通り合せ同選手が凍傷になやんでゐるので同課長は直にレースを中止して引返すやうすゝめたが自分はスキーに

は不なれなので取りあへず所持してゐたドロップ其他を與へ、着てゐたジャケット其他を同選手に與へてそのまゝにして待つて居なさいとて程近いヒユツテへ急を告げに出かけたところ相にくヒユツテには人が居らず、直にその足でスキー場の本部へ同選手の遭難を急報したものであつたが、同課長が發見した時が二時半頃で本部へ急報の着いたのが四時半であつた、これより先木谷清金選手の直ぐあとに續いてゐた同君の兄二中三年生木谷清喜君が通り合せ「おい大丈夫か、しつかりせよ」と聲をかける。「大丈夫だ」と答へたので「それではあとへついて來い」といつて進んだものであるが第三關門通過の際二中生が遭難してゐるとき、スワわが弟！なりとばかりに同君は直にレースを放棄して救援隊と共にとつて返し清金君の遭難箇所へ急行したものであるが、その時には既に清金君は上山課長と會つてジャケットを着て自ら約二キロばかり移動してゐた爲め遂に午後七時過ぎまで發見されなかつたものである、弟の身を案じて兄清喜君は本部にゐる兩眼を涙でなきはらして上山課長其他學友と共に物思ひに沈んでゐたのが人目をひいてゐた。

とてもスキーなど出來ないコース歸場した遭難選手の恐ろしい感想談

十一名の遭難者中救援隊の手によつて辛ふじて九死に一生を得た各選手は何れも空腹と疲勞の爲本部へハト／＼になつて通り着いたが着衣はビシヨ濡れなのでストーブの前で裸にして總かゝりで乾布摩擦をしてとり敢ず熱い味噌汁と牛乳を與へたが元氣を恢復して選手達はいづれも左の如く語る。

今日のコースは實に物凄い處が多く、到底スキーで滑つて行けない處ばかり、ある處など崖でスキーをぬいだところもありました、然も地理にうとく始めから終りまで雪が降り續き咫尺を辨せずコースを示す赤旗が雪に埋れてゐるコースを間違へはせぬかと云ふ不安があつて實に弱りました、また正午前に出發したのですから食事をとらず、第一、二、三關門では食物をもちょうことゝなつて居たのですがあとから行つたものは何も食ふものがなくて全く空腹で之には本當に困りました、今から考へると恐ろしい位です。

ゴールインせぬうち閉會式舉行で失態支離滅裂の當日の大會果然非難の聲擧る

昨日大會の掉尾を飾る男子三十二キロ級走に於て金澤中學が第一着となつてゴールインし第四高等學校チームの最後を承る同校文科三年長田信君がゴール直前約一キロの地點を滑走しつゝあるのを知りつゝ未だゴールインせぬにも拘らず夕間に急ぎ立てられて大會本部では午後六時迂調にも閉會式を舉行し全部の證書並に賞品の授與を終り第四高等學校へは同リレーに參加二校であつただけに二等の證書授與が行はれ遭難生と關係を持たぬ學生は全部引揚げを終つたが、その後に至るも長田君の姿が見えぬところより又しても大騒ぎとなり、同校スキー部員及び遭難生捜査本部々員一同で大捜査を開始し最後のコース附近である森林一帯に亘り捜査を行つた結果漸く午後七時に道に迷ひつゝも無事生存し居る事が判明するに至つた尙同大會は可憐なる二少年の生命を奪つたばかりでなく徹頭徹尾支離滅裂の光景を呈し且つ未だ受賞者がゴールインせぬにも拘らず閉會式を行つた等主催者側に對し多大の非難の聲があげられて居る。

辻學務部長現場に急行

急報に接した辻學務部長は午後九時に至り急遽自動車を驅つて現場に急行した。

逸る競技意識を捨て金商の林君を救ふ美しい一中園部選手の行動遭難にまつはるエピソード

最初午後三時頃白山スキー倶楽部員に依つて急報された金澤商業生林忠男選手の救援は非常にうまくゆき辛ふじて事なきを得たが救援隊の現場に到着した時には既に同人は四肢既に凍傷を起して人事不省に陥てをり大聲で姓名を叫んだり四肢を摩擦し脊中を叩いてやうやく正氣にかへらしめたが、全身ぐつしより濡れてゐるにも拘らず手足の自由がきかぬので同選手の不本願下などをナイフで引きさき救援隊員の衣服を着せて同六時頃、本部へかつぎ込んだものであるが、しかもこの林選手の救援された裏面にはまたうるはしい選手間の友情、エピソードがある、すなはち林選手が第三關門を通過してから文字山頂に折柄の吹雪と寒氣と空腹と疲勞にあへてゐる、折柄後方より追つて來た一中生園部選手がこれを發見し黙視するに忍びず「さあしつかり、一緒に行かう」とて手をとる如くにして行かんとしたが同選手はどうしても力盡きてゐるので遂に園部選手は競技を放棄して踏止まり大聲で救ひを求め乍ら約一時間現場で同選手の介抱をしてゐたところがその聲をきゝつけて白山ス

キー倶楽部若林選手及び笠置選手が聞きつけて急を報じたものであつたが、この爲め園部選手も一時消息不明として本部では憂慮してゐたものであつた。

不案でならぬ一中當局の談

生死不明を傳へられる木谷清金君の捜査の爲め第二中學校では小谷教諭が木谷君の實兄と共に午後十時現地向けて出發したが、同校では

午後九時スキー部主將の小島君から木谷君は無事で自分と一緒に居るからとの電話があつたが確報ではないものゝ様で、鶴來捜査本部からは目下のところ全く行方不明で生死の程も判明しないとのことで全く不安に堪えませぬ。と語つてゐた。

鶴來体育活躍

尙事件勃發と共に時を移さず山中の吹雪の難コースへカンジキをはき、スキーをはいて救援の爲め急行した二十數名の鶴來体協スキー部員の勇敢な活動は實にめざましいものがあり各方面では非常に賞讃してゐる。

悲しみに打沈む遭難學生の各家庭連動なら何でも來いの井關君悲嘆の涙に暮れる野々市町井關君の家庭

悲報を齎し野々市町に井關與子男君の實家を訪れば嚴父信次氏(五二)は急報に接し早くも現場に驅けつけた後で母たまさん(四四)は近所の人々と悲嘆の涙に暮て居たが左の如く語つた。

あの子は小さい時から運動が好きで剣道、水泳何でも來いと云ふ方で、此の間も學校の剣道大會で賞品をもらつた程ですが残念な事をしました、將來は建築家を志して居ましたのに……可愛想やら何やら云ふ事が出來ません、弟は片町の福井銀

行に勤めて居り姉が一人あります云々。

「眞面目な子でした」と泣伏す親戚知己で大雑沓の小立野新町の小西家

遭難した小西芳信(一九)君は市内小立野新町二〇番、小間物商小西仁三郎氏の四男で石引町小學校、小將町校高等科一年を経て現に市立工業電氣科の四年に在學中であつたが、品行方正で成績も常に優秀で性質が極めて温厚なので同級生の氣受けもいたつて良かった、本社の通報に實父仁三郎氏は驚いて直接現地に駆けつけたが折柄親類始め近所の人々が見舞やら慰問に押寄せて大混雑を呈してゐる中

芳信は眞面目な感心な子でしたがあんな可愛い子を死なしてとわ一つと大聲をあげて家人は泣き崩れて同家は全く憂色にとざされてゐた。

どうか無事でゐて呉れ……遭難のその夜の古寺町木谷君の家庭

兄弟二人で参加し不幸途中で遭難人事不省に陥つた木谷清金(二五)君は市内古寺町十二番地煉瓦製造販賣業木谷清吾郎氏の五男で長町小學校卒業後直に第二中學に進み目下一年に在學中であつたが、成績も良く活潑で友達仲も極めて良かったが、同家では實母筆子(五〇)さんを圍んで近親一同鶴來からの情報に一喜一憂してゐるが實母は

あの子は尋常五年の時からスキーを始めて雪さへ降れば毎日のやうに卯辰山や大乘寺山へ出掛けて居ました、今日も兄弟二人で勇んで行きましたが、無事であつて呉れ……ばよいと願つて居ます。と沈痛な面持で語つた。

電車中で悲報に接した父親等相擁して泣く劇的シーン

遭難の報の家庭及び母校に傳はるや遭難者を出した學校當局は勿論各家庭では周章狼狽し何れも大騒ぎを演じ小西芳信君の

嚴父仁三郎氏は午後六時鶴來行き電車で現場に急行したが更に井關與子男君の嚴父及び木谷清金君の嚴父は同七時半頃の電車に同車し急行の途に上り將に鶴來に近つかんとした車中に於て最後の悲報に接し共に相抱かんばかり悲嘆の涙にくれ劇的シーンを見せ並居る同車の人々の袖をしほらしめた。

御氣の毒の至りに堪えぬ西園体育主事の談

遭難者救護に盡力してゐる當日の審判長西園縣体育運動主事は右に就き悲痛の面持で左の如く語る。

この大會がこのやうな悲しい結果になつたといふことは主催者として面目次第もないことで家族の方々には、お氣の毒に堪へません、この日の十八キロのコースは五萬分の一の地圖で定めたもので實際は十八キロはないものです、相憎降雪が止まぬので頂上附近は風もあり寒氣も違ふから出發前にこのことはよく注意を與へておいたのです、降雪がひどいので中止しやうかと思つたのですが、餘り元氣なので行つたのです、今回の遭難の原因は種々あるでせうが、吹雪の爲め先の選手が行つた跡が直ぐに見えなくなり、一人々々がラッセルをやつて居る様な状態であつたこと、空腹などが數へられるでせう、スキー技術は熟練してゐても体力を考へねばなりません、兎に角私は責任者ですからこれ以上何も問はないで下さい。

心から哀悼の意を表す市立工業學校談

悲報に接した市立工業學校では午後七時三十分小西君の受持宮元教諭及び井關君の受持正見教諭が現場に駆けつけ校長も午後八時三十分急遽鶴來に急行し一方學校へは十數名の各科教諭が集まり悲痛の空氣に包まれて居たが學校當局では左の如く語る。

誠に父兄の方々に對し御氣の毒な事をしました學校としましても残念な至りで心から哀悼の意を表して居る次第です、正確の消息を待つて直に家庭への弔問を行ふ等萬全の事をし度いと思つて居ます、向ふには大賀先生も行つて居られるし選手も居る事であるから遺骸は一同が護つて家庭に行く事となつて居ります。云々

全隊赤禱がけて木谷選手を大捜査今晚に至るも発見されず同君の憂慮益々深し

午後九時に至るも依然として行衛不明の二中生木谷清金(一五)選手の所在は判明せず然も降雪は止みそうもないので鶴來署では西田署長の指揮で在郷軍人、消防隊等百餘名の大捜査隊を組織し三班に分れ八幡登り口から獅子吼平へ向け出發し、又一方鶴來町休協、青年團では何れも赤禱をして焼餅、握りめし等食糧携帯で同君の遭難地點と覺しき第二關門附近二キロの地點に向つたが、その中には遭難せる小西選手の實父仁三郎(五二)がかけて加はり、西園主事、岩地氏、瓜生二中教師も参加したが、三十日午前一時にはさらに在郷軍人十名が一組となつて山へ向つた、しかるに今晚に至るも発見されず、最早同君の生命は絶望と見られるに至つたがこの爲め鶴來スキー場附近は晝間近來になく女性軍をまじえて華やかであつたスキー大會も今は全くガラリと打つて變り、町當局では暗がりのスキー場まで焚き出し其他に大難踏を呈し悲痛の空氣に満ちてゐる、中にも清金君の實兄木谷清貴君其他遭難者の近親が詰めかけ焚き火を圍みはたの目も傷ましい涙の沈黙を續けてゐた、清貴君は左の如く語つてゐた。

弟がコースの行く手に當つて凍傷の爲めに倒れてゐるらしいので私は聲をかけてたしかめたのですが、大丈夫といつたのでそのまゝ自分のあとへついてくるやうにいつて進んだのです。山上は吹雪で二十米突ばかりの風速があり、あとから三人來たのでうしろについて来て居るものと思つて居たのですが、其の中には居ませんでした、直ぐにとつてかへしたのですが遂に所在がわからずこんなことになつてしまつたことはどうしても思ひ切れません。とて、ともすればせくりくる涙に聲も出ぬ様子であつた。

昭和八年一月三十一日北陸毎日新聞掲載

痛ましきスキー遭難

主催者側の失態に猛然たる非難の聲競技に對する用意を欠き無謀も亦極まるその設備

今回の鶴來スキー大會に突發した稀有の雪の悲劇に對しては各方面から種々論難されてゐるが、尠くとも石川縣体育協會の主催であり全日本スキー選手権大會豫選と云ふ大がかりなものであるので今すこしく設備を整へて萬全を期して臨んでほしかつたとの聲がありあれだけの降雪ある場合にはデイスタンスレースを中止するかさうでなければもつと、監視員、救護員を増置して人員の點檢を嚴重にしなければならなかつたもので十八キロコースのコースは今回始めてのものでそれも實地でなく五萬分の一の地圖によつたものであり全コース中僅に三ヶ所しか關門を設けてなかつた點、又五十キロ、十八キロなどの長距離競走出發後は傳書場でも手離したやうに放りつばなしで何時選手が何人かへつて來たか更に明確な記録なく、然もコース中のヒュッテの中には何等の應急處置を講ずべき貯蔵品、食糧等なくいざ遭難といふ時に小舎まで連れて來ても食はずべき食糧なく、焚き火をして暖をとらうにも木を伐るべき鎌も斧もないマツチもないと云ふ始末だ、斯かる諸點が主催者としての縣當局、鶴來町に對し各方面から最も非難されてゐるが、縣當局が死体收容後死體に對する處置にも遺憾な點極めて多く本部に收容されて二時間に亘るも縣として醫師を招かうともせず如何に深夜と雖も不誠意極まるものがあると云はれてゐる。

呼べども答へぬ悲しき少年選手小西、井關兩君を收容して必死の手當をなす

午前三時八幡へ下る山に松明、提燈の灯が見え出し小西、井關の兩君の死體が無事收容された事が捜査本部へ通報された、三時廿分スキーに乗せられて安らかに眠つたとしか思はれない井關君が鶴來、河内村兩消防組の人々によつて本部の石野小原區長宅へ運び込まれる、八幡まで出迎へた市工スキー部員、職員、近親者等は靴、ズボン、シャツ等をぬがせるのもどかしけにぬがせると藁で体を摩擦する、嚴父はじめ級友達が「與子男ッ」「井關ッ」と呼びかけたが何等の反響もない、枕頭には辻學務部長はじめ休協關係者が詰かけ大賀、宮元兩教諭が交替で人工呼吸を試みる頃ほひ父君仁三郎氏に負はれた小西芳信が運び込まれた、小西氏と共に急遽金澤から驅けつけた藤本醫師の手によりカンフル注射數本が施され、岩地縣休協主事が人工呼吸を行つたが約二時間、午前五時半遂に藤本醫師から絶命する旨發表されたが、看護につとめた級友、近親者は悲痛な宣告

を與へられるやを、えつ、の聲が静まり返つた土間にみちた、かくて午前八時半まで一同死体の側にてお通夜をなし、午前八時半級友達にまもられて擔架でスキー場を降りて鶴來驛に向つた。

木谷君の死体今朝コース中で發見 令兄も加はり必死の大捜査

遭難の市立工業生井關、小西兩君の死体は本日午前三時三十分河内村小原區長石野長松氏宅まで運び約二時間に亘り人工呼吸を施したるも遂に蘇生しなかつたが一方他の遭難學生二中木谷君の行動につき捜査隊を西田鶴來署長其他が指揮し極力捜査したるも容易に所在發見せざるため一先つ空しく捜査隊は歸還したが本朝午前四時三十分更に遭難地方の地理に明るき地元の河内村字八幡區民十名を一隊とせる新銳の捜査隊が出發し更に午前七時鶴來來協役員に西園氏を加へた一隊二十名が出發更に鶴來町在郷軍人、消防組員よりなる捜査隊二十餘名應援出動せる折柄先の午前四時出發した捜査隊には骨肉の兄木谷清喜雄君も参加することゝて午前九時三十分頃に至り遭難現場から約一キロ米突を下つた河内村八幡地内(鶴來八景の一)月情見山のコース中で木谷君の凍死體は發見され死体は河内村石切小原區長石野氏宅まで一先つ收容した。

一尺五寸の雪の下に齒を喰ひしばつて兄の足障りから發見

午前四時出發した第一捜査隊に加はつた木谷清喜雄君等は河内村八幡から獅子吼谷にさしかゝる際足ざわりが變なので不審を抱き早速積雪を掘り返して見ると約一尺五寸の雪に埋もれた弟清金君が齒を喰ひしばり手に雪を握つて苦悶の色を表しながら倒れてゐたのが發見されたので早速運搬作業にとりかゝつたもので同君が上り坂に氣息えん／＼とし漸く空腹と寒さに犯されはじめた時猛烈な吹雪で埋もれたものらしく夜間は同コースは度々捜査隊が通過してゐたが發見するに至らなかつたものであると言はれてゐる、尙同君の死体は森二中校長はじめ二方、瓜生教諭、級友近親者達に見まもられて下山、直に鶴來驛から金澤に向ひ零時四十八分野町驛に到着したが級友多數が出迎へた。

悲しき遭難學生の遺骸、自宅に歸る家族や學友等に護られて悲嘆に暮るゝ遺族

遭難學生市立工業生井關、小西兩君の死体は本日午前九時二十分鶴來驛發一八列車(一〇一號)電車で遺族、學校職員、學友等多數に護られ變り果た姿を井關君は野々市驛に小西君は野町各驛に運ばれたが、驛頭には市工生全部の悲しみの出迎へあり悲壯な訣別を行つた家族は僅一日で變り切つて歸つた息子達を前に悲嘆に暮てゐた。

誠に申譯がない家族慰問の途を講じたい縣体育協會長山口知事の談

縣体育協會主催に係る全日本スキー選手権北陸豫選大會に於ける學生の遭難は各方面にシヨックを與へて居る、体育協會長山口知事は左の如く語る。

亡くなられた方々及び家族に對してはまことにお氣の毒に堪へぬ、昨夜報告があると同時に辻學務部長に急行して貰つたが詳細の經過は同部長が歸つて來てから明かになると思ふ、いろ／＼と調査した上で適當な處置をとりたいと考へて居るがあんな競技大會に犠牲者を出すこと云ふ事は自分としても意外で餘程コンディションが悪かつたのであらう、主催者側としてはまことに申譯けない事で犠牲者の家族に對しては充分慰問の途を講じたい。

出發時の快晴が不運の第一歩關門看視人の怠慢もある國本保安課長の談

學生遭難を耳にして急遽馳せつけた縣國本保安課長は三十日正午歸應して左の如く語つた。

今度の失敗は非常な教訓を得たとに角、出發の時は快晴であつたといふことが不運の第一歩であつたのでそれから今回の如き長距離レースに出場する時には、自分の体力と技術と又山岳の地理をよく知るといふことが先決問題であらうと思ふ、それから木谷少年は第一關門をパスしてすぐ落伍したもので、第一關門の看視人は全員を見届けてから逆コースをとつて本部へ引

揚けたもので、第二關門の看視人は其の附近の二人の落伍者を介抱して其のまゝ間道から本部へ引上げたので第一關門と第二關門との中間にゐた木谷少年は不運にも誰にも見つからなかつたものであつた、之れが第一關門の看視人が全員を送り出してから第二關門まで通り、そして受け継いで引上げたらかゝる事は防げたかも知れませんが、兎に角かゝる競技中に犠牲者が出たことは曾つて無いことと縣下としては山中の富士寫ヶ嶽、鶴來のスキー場は大掛かりなもので今後の不幸を防止する爲め保安課としては注意を發しやうと思つてゐる。

スポーツに冒險は禁物野田金澤運輸事務所長談

鶴來に於ける少年スキーヤーの遭難にスキー通を以て任じてゐる野田金澤事務所長は右につき語る。

本縣最初のスキー犠牲者を出した事は全く遺憾に堪えない、この尊い犠牲者に依つてスキーヤーを持つ一般家庭でも今後は緊張せられるだらうが、その爲めスキーの發展消長に影響するとは思はれない、つまりグラウンドスキー(運動場スキー)ならば絶対安全なのだコースカンツリースキー(長距離)となると餘程細心の注意を要する、鐵道では別段スキーを宣傳すると云ふ程の事も無いが、鐵道本來の精神からスキー同好者に対して相當のサービスを努めることは必要だからやつてゐるまでの事で軍人や警察官の如く必要に迫られてやるスキーなら無論別だがスポーツとしてのスキーに危険を冒してまでも出掛けることはどうかと思ふ、鶴來の場合でも關門を澤山設けて見張でも置くとか其の他主催者側で充分の用意があればあんな事とはならなかつたと思ふ。

傷ましい遭難に當局責任を痛感最大の慰問方法を講ず—昨日廳内で關係者協議

一昨日の鶴來スキー大會に於て市立工業學校生徒小西、井關兩君及び第二中の木谷君三名の犠牲者を出したる悲慘事に對し社會の非難は高潮に達してゐるが主催者側として辻學務部長、村田社會課長、東社會教育課主席、西園、岩地協主事は善後處置につき昨日午後廳内で種々協議の上山口本縣体育協會長に大會に於ける生徒の遭難状況を、具さに報告するところがあ

つた、遭難の犠牲者宅には山口体育協會長代理が夫々懇に弔問の上昨夜は靈前の通夜をなして葬儀には弔詞花輪を供へることは勿論協豫算の許すかぎり弔慰料を贈る豫定となつて居るが辻學務部長の報告を受けたる山口知事は左の如く語つてゐる。

今回の大會は競技開始當時は總て順調に運んでゐたのが午後の天候が險惡となつた爲め遂に豫期せざる悲慘事を惹起せることは全國にも餘り例に乏しい出来事であつて、會長の自分としては相當責任を感じてゐる、大會關係者も其の點は大いに考慮してゐることであらう。

悲しみはまた新に涙に暮れたお通夜美事な花輪に包まれた靈則けふ盛大な三君の葬儀

朝に勇躍して出た我子の、あまりにも變り果た哀しい遺骸を僅かに一日にして迎へた、今回の雪の悲劇の三主人公小西、井關、木谷君の三家庭では何れも三十日夜泣いて、悲愁極まりない通夜をしたが、市立工業生小西芳信、井關與子男兩君の靈前には學校當局から大きな花輪と香奠がおくられ其前に合掌してゐる家族達や山賀校長以下全職員、クラス・メイトの前にかざられた生前の同君等の寫眞は餘りにも生々として眼のあたり今にも物云ふ如くであつたのが新な涙をわかしめたが同校では同時に二人の遭難者を出したといふので近く慰靈祭を舉行する筈で取敢ず三十一日の葬儀には同校職員、生徒參列して校長生徒總代の弔辭を述べることとなつた、又二中生木谷清金君の家庭では之も又痛ましい通夜が行はれたがその席には遭難を最初に發見して通り合せ言葉をかはした實兄清貴貞君、然も引かへして遂に見失ひ、徹宵の大捜査隊に、疲勞をおして敢然加はり自らの手によつて一尺五寸の白雪の下に冷たく埋もれてゐた愛弟の亡骸をさがして清貴貞君が泣いても泣いても乾はかぬ涙をぬぐつて靈前に坐り校長、職員、縣村田社會課長、西園協主事、其他關係者が埋めつくして、美事な花輪に見守られて、たゞ參列者の涙をすゝる音ばかりの情景であつた、同君もまた卅一日葬儀が執行される筈であるが同校クラスでは全員が參列する模様である。尙小西芳信君の葬儀は午前十一時木谷清金君の葬儀は午後一時から二時迄、井關與子男君の葬儀は午後二時よりそれ／＼執行される。

吹雪の中に私を見て木谷君は倒れた背負はれぬ猛吹雪の大自然上山課長具さに語る

尙三十日午前九時半レーススタート以來十三時間の後やうやく死体となつて発見された二中生木谷清金君の現場は始め兄清貴君が認められた時、上山地方課長が認められた時とは全然異なり河内村八幡地内の月清山まで移動して居り、最初の第二關門を通過して間もないコース上から約一千米突を距たるところにあつたので捜査が手間取つたものであるが、同君は凍傷で瀕死の重態に陥り乍らも胸まで埋もれる新雪をかき分け、こうしてはをれぬ、と思つて最期の努力をかたむけ下山せんと努めた様が歴然としてをり、同君のスキーは附近にぬぎ捨てられて見當らなかつた、始め上山地方課長が発見したときは同君は立つてゐたが課長の姿を見るや氣をゆるしたものがぐしやりと倒れてしまつたもので課長はレースに加はつてをらず山岳スキー研究の爲め五萬分の一地圖を持つて附近コースを辿つてゐた折なので時間にかまはず同君を連れ戻らんとしたものであるが新雪が深くて運搬出来ず、吹雪が猛烈なものでこうして居ると自分も共に遭難する危険があり、極度に空腹を訴へてゐる同君には持ち合はせたドロップ、キャラメル等を與へたところむさほるやうにそれを食つた、そこでジャケツを與へ動かぬやうに、眠らぬやうにと注意を與へて附近のヒュツテへ急を告げに出かけたものであるが第二關門のヒュツテにゐた看視人は全員通過を見届け午後二時になつたので第一關門の方へ逆コースで引上げたあとであつたものである、なぜ上山課長が傷つた木谷君の介抱をして現場に救援隊のくるまで待つてゐてくれなかつたか、零下十五度の山中におき去りにせず附近のヒュツテまで引すり込んで呉れなかつたかに就て同課長は左の如く語つた。

新雪がとてむどく然も猛吹雪で、とても私一人の力で同君を背負つたり引いたりして小舎迄行くといふことはとても不可能なことでした、同君はそれから約一キロばかりも歩く程の元氣があつたのでその當時は大丈夫だといつてゐたのでとり敢ずジャケツを與へて防寒に努めしめ疲勞の爲めに眠らぬやうにまたコースの上から動かぬやうにと注意をして一刻も早く救助を求めやうとしたのです、附近の小舎(第二關門)へたどりついた時には約一時間も要したのでそこから再び同君のもとへ引返すには更に一時間を要し、それよりも本部へ急報する方が良策と信じたからでした今となつて見れば私は同君と共に現場にゐる元氣をつけて救援隊の來るのを待つてゐた方がよかつたかも知れませんが、同君のことを考へると私は氣の毒で残念でなりません。

昭和八年二月卅一日北國新聞掲載

スキー大會遭難者

尺餘の雪の下に二中生の死体発見—市工業生の二凍死体收容夜を徹しての搜索搬出

三つの若きスキーヤーの靈を呑んだ鶴來スキー場後方の獅子吼——風吹峠——後高——文字山一帯は廿九日夜も猛烈な吹雪が續き一間先さへ判別できない第一——第二と連續出發する或は鶴來町青年團、同体育協會あるひは鶴來、八幡兩消防組さては兩在郷軍人たちの救援、搜索隊がかさす炬火でさえわつかす米さきを照らすばかり然も寒さは刻一刻と増して山麓は零下五度、遭難地附近は同じく十八度位と思はれる位で寒氣ヒシ／＼と迫るのみ、午後九時尻高の頂上に赤々と炬火が點せられた——金澤工業の二君を発見した合圖であるイザとばかりに搜索隊はこゝを指して登攀せんとしたが西田鶴來警察署長は「なほ不明の木谷君の搜索に力むべし」と命じて更に獅子吼平方面に數班を派したが風吹峠の名に恥ぢず猛烈な風に阻まれて進むを得ず何れも空しく引きあけるばかりでありその間金澤二中スキー部員の焦慮は傍の見るもあはれであつた、かくて午前四時一先づ木谷君の搜索を打ち切り全力をあけて小西、井關兩君の搬出に努め午前四時兩者は凍死の状態で搜索本部なる石切小原の石野區長宅に運び込まれ萬全の手當を加へたが遂におよばず、かなしきむくろとなつた、他方未明を待ちかねた木谷君の良兄信次氏は金澤市内から馳せつけた人夫ならびに八幡區民をかつて午前四時出發つゝいて瓜生金澤二中教諭の率ゐる同校生徒隊、鶴來在郷軍人、鶴來体協員、鶴來女子スキー俱樂部員と順次凡そ一時間おきに出發、その間森金澤二中校長は悲痛な面持ちで報告をまつてゐた、かくて卅日午前十時廿分「死体発見」の報とともにも年齒わづか十五年にして大犠牲となりたる木谷清金君の死体は人夫の背に負はれて痛ましくも搜索本部に歸つた。

今朝十時を過ぎて木谷君を掘出す惨として聲なき搜索隊生きんと藻掻いた現場

令弟金澤二中木谷清金君を捜索のため令兄木谷清喜男氏の引るる人夫隊は午前四時未だあけ切らぬ中を勇ましく出發したことに勢ひついで在郷軍人も出發すれば前日山中で疲勞し切つてゐた木谷君にリユクサツクや上衣、外套を與へた上山石川縣地方課長は西園石川縣体育運動主事と午前八時半吹雪をついで出發まもなく大崎嶺はじめ鶴來女子スキー倶楽部員も出發する、目指すは獅子吼平である、やがて第六搜索隊を出發させようとした頃傳令によつて「死体發見、八幡にむかつて下る」との通知あり待らに待つた森金澤二中校長はじめ一同而上にサツト喜色がある、誰からともなく「萬一は望めまいか」といふ言葉洩れる「だめでせう」といふ叫びに暗然と聲を呑む、イザと一同八幡へむかつて進發すれば、おゝ若き犠牲者は痛々しくも人夫に背負はれて歸り来る、同じいレースを續け金澤工業生の救出につとめてゐた令兄清喜男君は「あゝ」と最後の聲を呑む、まことに傍にある者をして斷腸の思ひあらしめたが清金君は前日上山氏が情のリユクサツクを捨て、伏臥豫定地より凡そ五百米北方にスキーを捨て、杖を捨て満身これ生きんことを求めて獅子吼のヒユツテにむかつて夜半おそくまでさまよい歩き力つきて仆れたものゝ如く尺餘の雪に被はれてゐた。

蘇生への努力空し魂凍つて還らず變り果てた工業生

井關君の死体は卅日午前三時廿分ごろ石川縣石川郡河内村字小原の石野區長宅に鶴來消防隊の手によつて運ばれ續いて四時近く藤本醫師にみとられた小西君も父君に背負はれて同所に運ばれ山賀市立工業校長以下各職員、學友や親たちは聲を限りに或はいとしの名を、學友の名を呼びつゝ人工呼吸を施し更に四肢に藥擦を行つて蘇生せしめんと懸命に努力したが冷え切つた兩君には是等の慈愛と情けは通はず午前五時近くには兩君の父君も暗然泪をのみ最後の聲を絞つて悲しくも愛見へ惜別して別室に退きこゝに二人の靈は永久に還らぬものとなつた、參集せる人々も檢視の終るをまつて最後の告別をなし午前八時四十分兩死体は父君をはじめ辻石川縣學務部長、山賀金澤工校長、村田石川縣社教課長その他級友、親戚多數に護られて出發、午

前九時十分鶴來驛發電車で變り果てた姿でそれ／＼歸宅した。

詳細調査の上適當處置する―協會長山口知事談

今回のごとく競技中數名の遭難者犠牲者を出したことは全國でも殆ど類例のないことであり、しかも當日のコンディションに對し相應の設備をしなかつた點等において主催者縣体育協會側の失態に基因することはいふまでもなく識者間に讞々たる非難の聲をあけられてゐる、右につき体育協會長である山口知事は語る。

まだ詳しい事情は聞かないがその日相應の設備をしなかつたといふ點において落度のあつたことは否めまい、犠牲者に對してはまことに相濟まぬと思つてゐる、昨夜早速辻學務部長を現場へやつて弔意を表さしめたが今後の責任等については詳細調査の上適當に處置したいと考へてゐる。

縣体協の大失態當然なすべき設備を怠つたこの責任を何とする!

素晴らしい猛吹雪にも拘らず十八キロ長距離のスキーレースを少年達に敢行させて遂にわが國として未曾有のスキー大會に遭難死者を三名も出したことは大會主催者としての石川縣体育協會は非難の中心に置かれてゐるが當日の設備としては十八キロ(四里半)のコースに關門が三つありしかもその關門には僅二三名の委員を配置するのみで何等突發災難の準備が講ぜられずしかもかゝる猛吹雪の中に少年部の長距離レースを始めてその最後に一名の醫務班も救護班も附隨せしめず遭難の際の手當が一つも用意されず遭難者があるとの報告に初めて鶴來スキー倶楽部の人達を捜査救護に出してゐる點に主催者として重大な失態を演じてゐる、しかもこれが民間のスキー倶楽部位の主催なら兎もかくいやしくも知事を會長とし体育主事を當面の責任者としてゐる石川縣体育協會がかゝる事態を惹起せしめたことは一樣に世人を愕然たらしめると共に犠牲者への痛惜と主催者への呪詛を叫ばしめるに至つたものであり、このレースへの参加者は申込み七十數名であつたが多くの吹雪と不参加のため棄權し出場者は僅廿數名に過ぎずその上山は氣温零下十度の寒冷さに加えて卅秒毎に出發する選手の中十一時過ぎに出發し

た遭難者達へは關門々々で糧食を與へることになつてゐたがそれも充分行き届かず（木谷、小西は委員の與へる糧食を斷つた）井關の遭難した場所は第二、第三關門の間で通稱風吹峠と呼ばれる難所でこんな難所があるにも拘らず相當の警戒を怠つたことは返す／＼も競技主催者たる休協の大失態であるとされてゐる。

將來のスキーに大きな教訓國本保安課長談

現場に駆けつけ、今朝歸つた國本保安課長は語る。

今回の失態は將來のスキーに大きな教訓を與へた、今後スキーに出場するものは体力、技術、山嶽の實況を充分調査の上でなければならぬ、今朝發見された木谷君の死体が今まで判らなかつたのは出發の際快晴であつて途中猛吹雪となつたことと第一關門の看視人が木谷君が第一關門を通過したのを見て引上げたが、その遭難が第一關門を出發して間もなくであつた爲である、今後は中學、小學のスキーには注意を充分與へ、殊に鶴來、山中の富士寫ヶ嶽は縣下の二大スキー場でこれから種々の大會があると思ふから保安課としての嚴重注意をする積りです。

犠牲者の宅へ市長代理慰問

遭難した市立工業學校生徒井關、小西兩君の弔意を表するため藤澤市教育課長は吉川市長代理として廿九日朝實家を訪問すると、あつたが兩君の葬儀には吉川市長、藤澤教育課長等も參列するはずである。

昭和八年二月一日北陸毎日新聞掲載

この父性愛を見よ—愛し兒の屍に暖かい涙と掌！小西、井關兩君の父が示した哀しい幾多のシーン

鶴來スキー場に於ける今回の三中等學生の遭難は十八キロレースで生命を落した事件だけに従來山岳スキーで行術不明やコースを間違へて遭難した例と異なり全國に於ても最初の出來事としてセンサーションを捲起してゐるものであるが、廿九日午後六時頃いよ／＼小西、井關、木谷三選手遭難確實となり翌朝死体收容に至るまでの間にいくつかの悲しいエピソードを醸した中に小西芳信君の實父仁三郎（五三）氏、井關與子雄君の實父信次（五一）氏をめぐりこれまたかなしき父性愛の二重奏がある。

井關與子男君が遭難したとの本社の急報に接した石川郡野々市町の實家ではその驚愕おびたゞしく、直ちに實父信次（五一）氏は宙を飛んで鶴來スキー場へかけつけたが一家の人々は今の今、もうわが子が歸るかと思ふ風呂をわかつて待ちわびてゐた矢先であり實に他の目もいたまじい位の案じぶりでありたすら奇蹟を念じたものであるが途中電車内で遂に兩君の死を聞いてワツとばかりに男泣きに泣き崩れた同君は一人息子であり、もう卒業するといふので一日待ちに成人を待つてゐた父はその朝喜び勇んで家を出る時に特に注意してあぶないと云ひ聞かせてあつたのであくまでも死んだ氣がせずスキー場の捜査本部にはいつて山に上つた捜査隊員が運んでゐるといふわが子の死体を待ちこがれた。そして翌午前三時すぎ千萬に一つの奇蹟と願ひながら待つたわが子の冷たくなつた姿を本部の石野小原區長宅へ迎へ、それから藤木醫師の手當、岩地氏等其他の二時間半にわたる人工呼吸の間、そのそばを離れず朝出たまゝの元氣な姿、顔色であるが齒をくひしばつてゐる物云はぬ愛息に「與子男！與子男！冷たかつたか！そうか、そうか」といつては温かい掌で腹をさすり、はふり落つる豆のやうな涙をボタ／＼と膝に落した、その間隣の部屋では同じく冷たくなつてゐる小西芳信君が取まかれて人工呼吸をうけてゐるが障子を通して「あゝ顔色が出た！あゝ眼をひらいた！など、叫ぶ學友の聲をきいて、その度にまた新たな號泣をした、如何にも諦めるなどといふなまぬい氣持どころでない悲痛な、深刻な氣持であるらしかつた。

小西芳信君の實家市内小立野新町二〇の實家では急報とゞもに井關方と前後して實父仁三郎（五三）氏がこれもまたとるものも取り敢へず鶴來町へ急行したが井關氏と同じく我が子の死を途中鶴來行の電車内で耳にして號泣した、捜査本部へかけ込むや否や直ちに進んで救援隊に參加を願ひ出で、吹雪の夜中を「俺は山育ちだから大丈夫だ」とてガンジキをはき、松明を手にして山へ分け入り死体の收容されてあるといふ第二關門のヒュツテに向つたが、小舎に入るやわが子にかけよつて生けるもの

に物言ふ如く「お父さんだ！どうした、冷たかつたか」といつて自分のこぼえた手をいきなり腹にあてた。「温味がある大丈夫だ、今すぐあたゝかくしてやるぞ！」とて自分の腹巻さいてまきつけ、それから新雪深く歩行困難な吹雪の山中にもかゝはらず脊負つて山を下つた、然もその途中重味の爲め芳信君の肺がクツ、クツと鳴るので「まだ生きてゐるくゝ」とて勇氣をふるひ起して區長の宅へ歸着した、然し醫師から既に絶望の旨を宣告されるや人工呼吸其他一切の手當を醫師、救護員にまかせて自分はスキー場の捜査本部に來り既にあきらめて捜査隊員其他に種々手をかけた禮を述べてゐた。「息子はスキーが好きでした、私のうちは代々長命者ばかりでした、あの子も長命して多く働いてくれるものと思つてゐました、しかし好きなスキーで命を落したことは今となつて見れば仕方ない事です、之がために將來何等かの捨て石となれば當人も満足でせう。」

死の挿話—友愛に生き雪の床に眠る聞くも涙の小西、井關君—若林選手の目撃談

今回のスキー遭難者中市立工業生井關與子男、小西芳信の兩君に就ては聞くもまた涙新なる友情哀話が藏せられ、二人の冷たいむくろの裏には井關與子男君の最期まで友を想ふ熱情、挺身的努力があつたにもかゝらず遂に天はこの少年の誠心にくみせず二人の生命を奪ひとつたものであることが端なくも判明するに至り、家族の悲愁を新にし心ある人々の涙を絞らしめてゐる。

即ち井關、小西兩君の遭難現場は第一關門と第二關門との間で（第二、三間は誤り）第二關門のヒュツテの約一キロ半手前にあたる馬の背のやうな尾嶺で最初に遭難を本部に報じて來た白山スキー倶楽部員笠置選手は同ヶ所を午後一時半頃に通過した、その時には二人共に弱り乍らも歩行してゐたそれから約四十分遅れ二キロ位後方から同倶楽部員若林選手が續き、同君が近づいたところ吹雪の向ふの峰に大聲で「救けて下さい！」と叫んでゐる聲がかすかに聞えた。飛び出して行きたかつたが猛烈な吹雪であり寒氣きびしく馬の脊のやうなところを傳はねばならぬのでしばらく待つて出かけると一人がスキーをぬぎすて

ゝ杖をはうり出しこわ／＼になつて居て口から血を出してぶつ倒れて居るので飛んで行つて同人をかゝへ起し脊中をいきなり二十回はかり叩きつけた、ところが漸く兩眼を開いたが口のあたりが凍りつき眉毛は凍水が一寸許りものびてゐるし耳からは矢張り凍水がさがつて居るといふ始末、一と言いつたのは「何か下さい！」といつたのと「小西！」と云つたりですぐにも睡りにおちやうとして將に其時は危険な状態であつた。その近くに今一人居たがこの方な非常に元氣で先刻から救ひを求めてゐる様であつた、姓名は井關といひ絶えず「小西！しつかり！しつかり！」と連呼してゐたものであつたが、同人も既に自分のスキーをぬぎすてゝをり若林選手に救ひを求めたのでこれではどうするわけにも行かぬのでスキーをはけと命じたが既にスキーの皮具は鐵のやうにカン／＼に凍りつき、かんじんの兩手先は自由がきかす、その爲め同選手がスキーをはかさんとしたが兩君が、また兩手は杖を握つたまゝの形で自由がきかす、口の邊り、耳まで同じくつらゝがさがつてゐる状態でも手の下しやうがなく、仕方がないのでその邊りの新雪を踏みかため二人のスキーを並べて風上に立てかけ風除けをつくりそこに兩人を立たしめて足ぶみをせしめ睡眠を避けるやうはけまし合ふことをすゝめたところ、井關は「ハイそうですか」と答へてその通りをしたが小西は立つだけの氣力なくぐにやりとなつてしまふ様子であつた、若林選手は「必ずしつかりして呉れ、すぐに急を告げて小舎から迎へに來さすから」とて約三十分間手當をしてゐたが直に第二關門、ヒュツテに向き出發した、同選手は小舎に達する手前で一人のスキーヤーが下つてくるのに出會ひ急を告げてまた小舎まで進んだものである、同選手の語る處によれば井關君は其時は未だスキーを脱いでゐたがヒュツテ迄歩いてくるだけの元氣はあつた、との事で若林選手がヒュツテに達する迄救ひを求め大聲が吹雪の中に聞こえてゐたとの事で若林選手が如何に小舎に行くやうすゝめてももう口がきけなくなり乍らも「小西！小西！」と連呼してゐる瀕死の友を見すてゝそのまゝ去るに忍びぬらしく踏止どまつて自らスキーをぬぎ介抱してゐたもので全く井關君は小西君への美しい犠牲愛といふか友情につながつて救はるべき生命を友と共に失つたものであつた。

若林選手のヒュツテについたのが三時過ぎ、そこには五、六名の選手が落伍してゐたが何れも弱り切つてゐる遭難地點へ行けず小舎には番人が一人ゐるが、かんじんの食糧品はさらに何一つなく遂に今回の悲惨事を生むに至つたものであつた。尙若林選手は當時の事を次の如く語る。

山中は猛烈な吹雪で、寒気きびしく零下十五度位、私は醫王山を突破したこともありすが、かゝるひどい目に會つた事はありません、このコースを無事にやれば醫王山位楽なものです、然も不なれな者がコースをつくつたと見えて急を告げに急行したいのですがコースの到るところ雪の上の小枝が芥か蠟で切つてあり竹をそいだやうになつてゐるので危険極まりなく、思ひ切つて進めないのは弱りました、あれなどは手でビシ／＼折つてさへあればそれでいゝものです、私自身も眉毛、耳につらゝが下がり口が利けず手は杖の形のまゝ凍つて動かすワイヤットはカッパ／＼になつてゐる状態でした。然もかんじんの小舎には甘個しか握り飯を用意してなく、夫が先の人々の中にはたらふく食つた爲め酒迄飲んで行つた人があるにも拘はらず後の人は何一つ食へられなかつたと云ふ慘めさで、まるでお話になりませんでした、井關君は實に小西君の犠牲になつたものです、可愛想な事をしたものです、私は當然小舎に連れられて来て手當をされて生命は大丈夫だらうと信じて居たものですが當日は看護員や他の人も私が急報してもなまぬるい返事ばかりして不慣なところが見え不満でした。

昭和八年二月一日北國新聞掲載

九死一生を語る林君—魂は次第に遠く空後に第三關門で蜜柑一つ毆られ打たれて生き残る

近縣スキー競技大會に十八キロ選手として出場して鶴來スキー場上方約一キロの文字山附近杉林中で遭難した金澤商業二年生林忠男(一七)君は幸ひ同じく同競技出場の前澤一中生園部昌清君に發見され介抱を受けて一命を取り止め目下市内白山町の自宅でなほ指先の痺れを療養中で學校を休んでゐる、林君は全く疲勞を回復し遭難當時の模様について語る。

僕は廿七番で十八キロには第十番目位にスタートしました、その時は天候は良好でしたが寒さは可成り強かつた、第三關門までは抜かれもせず順調に這つて行きましたが第三關門を過ぎてから猛烈な吹雪と霧が襲つて来たため目標の旗は飛び先に通つた跡も無くなつて全くコースが判らず一寸先も見えなくなりました、それに尾根が細くて非常に這り難くいコースでした、途中の各關門では先に行つた者が飯を全部食つたためか握飯は一つもくれず僅かに第三關門で食物を要求すると蜜柑一つを呉れた切りだつたので非常に空腹を感じて来ました、そうなることと出ることも出来ず下り坂のところまで二、三度も轉び

ました、それと共に空腹と疲弊からフラ／＼と眠氣が襲つてきたのでこれでは駄目だと思つてスキーを脱ぎ歩かうとしたが胸までゴボつて歩けなかつた、再びスキーを穿いて這るとカーブで二間程の崖へ落ちました、しかし元氣を出してやうやく崖を登りこれ以上レースを続けられれば倒れるばかりだと思つたので附近の杉林を見つけて避難し倒れるのを防ぐため杉の木に寄りかゝつてゐました、そこへ幸ひ園部君が通り合せてくれ僕を發見し青年組の通過選手に急をつけ三時ころやうやく捜査隊がきて食物を呉れ四時半に引上げて来ました、園部君が来たのは一時頃でその時は話も出来ましたが、次第に眠氣と空腹で物もいへぬようになり、寒むい感覺なんか少しもなく次第に氣が遠くなつて行くのですが僕は全部記憶があつた、顔から流れる汗がツラ、となり着てゐたジャンパーやスキー褌衣はバンバンに凍りついてゐました、その間園部君は僕の背中を打ち杉林から上までを數回往復して下のスキー場へ喚びました、僕はその間倒れさうなのを無理に我慢して杉の木に寄つてゐましたが、もう少し時間が経つて倒れてしまへば危険なものでした、今から考へれば園部君に全く感謝してゐる次第です、何しろ關門で飯をくれず空腹になつたのが最大原因だと思ふ、レースの途中喰つたのは出發の時持つて出たキャラメルと第三關門の蜜柑だけだから腹のへるのも當然だ——とにかく幸ひ助かつてよかつた。

スキー遭難の最大因

思ひ設けぬ突然の猛吹雪食糧の準備を注意した遺憾に堪えぬ—西園体協主事談

全国的に大センセーションを起した石川縣鶴來スキー場のスキー大會に若きスキーヤーを三名も選らぬ體とした憾事については主催者石川縣体育協會は非難の中心となつてゐるが當面の總指揮監督の位置にあつた西園体協主事はその真相につき原因状態、設備、救護等詳細な當時の様態を書き廿一日中に脱稿し適當に發表する筈であるが同主事は語る。

最も大きな原因として挙げられる事はこの地方としては珍らしい大吹雪であつた事である、全く咫尺を辨せぬ大吹雪で而も先に通過した選手はこの吹雪に遭遇せし午前十一時頃から吹雪始つたのが午後二時頃からは益々猛烈となり其時尾根を滑走してゐた選手は何とも出来ず小屋に入つたものさえあつた、遭難した三人の選手は全く前進出来ず遂に仆れてしまつたも

のらしく仆れたのを発見したのが午後三時十分頃、而も救助に向つた頃は更に吹雪が甚しく救助の作業も思ふやうに出来なかつた。仆れてゐる選手を小屋に運ぶ事も出来ぬ状態で現場で焚火するやら人工呼吸を施すやら着物を着換えさすやらしたのが救助に行つた十二三名の人達も遂に現場にゐる事が出来ず救助の人達も倒れ出すといふ猛烈な吹雪となつた。現場は鶴來スキー場から二キロ位しか離れてゐなかつたのであるが思ふやうに救助を進め得なかつたのは返す／＼も残念である、コースを間違えたとか谷へ落ちたのちやまだあきらめやうもあるがみす／＼救助を手おくれしたことは残念です、木谷君のたふれてゐるのを発見した地方課長の報告も四時半頃に来たのでこれも遅れてしまつて申譯のないことになりました、その外にこのスキー大會の設備としては自分は萬全のことをしたつもりである、マラソンや自転車競走と違つて醫者を山の上を滑らかすことも出来ずたゞ本部の所に規定の通り藥や醫者を置いてゐた、食糧は五十キロの競技でないと支給せぬことになつてゐるので出發に當り老婆心から「食糧は充分ないから自分で持つて行く様に其上萬一の際のため三時間以上は耐えられるやうに衣類と食糧を用意するやうに」私は注意をあたへたのでした、要するに突然襲つた猛吹雪のためであらゆる方途をつくした私共の努力も無効に歸したので誠に残念です。

昭和八年二月二日北陸毎日新聞掲載

スキー—遭難問題

責任を一身に山口知事の苦衷定款を改正しても退職—縣体協に一抹の暗影

石川縣体育協會では昨日午前十時から縣廳知事室に緊急理事會を開催し鶴來スキー場に於ける選手遭難事件の顛末を聴取すると共に善後策を講ずるところあつたが事件の責めを負ひ會長山口知事は副會長に辭表を提出し副會長辻學務部長を始め幹事村田社會教育課長、西園主事は何れも會長に辭表を提出したので之を受理すべきか否かに就ても相當論議され理事中相當強硬な意見も出た様であつたが理事中三名の缺席者（小松四高校長、澤野市會議長上京中、石黒傳六氏病氣）もあつたので知事

から今後の處置に就ては會長に一任方を懇願し午後二時すぎ一先づ散會となつたが山口知事の責任感是非常に強く會長は知事を以て充てるとある協會寄附行爲（定款）の改正を行つても退職し責任を一身に負はんと考慮して居る様様が看取せられ体協の前途に一抹の暗影を投げて居る。

今回の慘事には何かに欠陥体協の今後は理事會で山口知事語る

右に就て山口知事は語る。

本日の理事會では不祥事の起つた真相と計畫、設備、實施、救護等の處置に就て當面の責任者から説明を求め今後とるべき方策に就て協議した、犠牲者及び家族に對する慰靈慰問はとり敢ずの事丈はしたが更に出来る限りの方法を講じたい、又遭難事情中真相が明かとなつて居ないものに對しては世間へ發表する考へで全日本スキー聯盟よりも照會があり今後行はれるスキー競技上の尊い経験として誤りなきを期せしめたい、今回の椿事は何れにしても何處かに缺陷のあつた事は認めざるを得ぬ、何と理窟をつけても事實は事實で此の點縮の至りである、責任の問題に就ては會長である私が最も痛感して居る体育協會は行啓記念として縣民各位の寄附金で結ばれたもので、此の事件があつたからとて潰す事は出来ぬ、今度責任者から辭表を出して來たが、自分としては範圍を廣く及ぼすことは絶対反對である、會長が責を負ふのが當然で職員は指揮に従つてゐるに過ぎない、然るべく自分として考慮する、唯會長をやめる事は現在の定款では困難だから副會長に適當に處置をして貰ふ考へで財團法人としての寄附行爲登録の状態を調査して貰つて居る、今後の体協をどうするかに就ては別箇の問題として考へるが必要があれば今一度理事會を開くかも知れない、尙此事件の爲め豫て体協の手で山中温泉に催す事に交渉を受けて居た中部日本スキー聯盟競技大會は遠慮する事とした。

課長の職をも辞する覺悟—村田社會教育課長談

尙幹事である村田社會教育課長は語る。

私は被告の立場にあるので今日の理事会には當時の事情を説明したのみで遠慮して居ました、私としては重々責任を感じて居ます体育協会の幹事は謂はゞ囑託ですが体協の仕事は社會教育課と不可分の事情にある以上体協の幹事のみ辭しても意義をなさず私としては社會教育課長の職も共に辭すのが本當だと思ひます、唯念願とする事は何事も知られぬ私より以上の協員の方々に責を及ぼしたくはないと願つて居ます。

昭和八年二月二日北國新聞掲載

スキー—遭難事件

体協理事会で會長知事先づ辞表 學務部長、社教課長を始め 西園主事も辞表を提出

石川縣体育協會および鶴來体育協會共催の全日本スキー選手権豫選地方スキー競技大會に十八キロレースで三名の遭難者を出し我國スキー大會未曾有の大失態を演じて非難の中心となつてゐる主催者としての石川縣体育協會では一日午前協會長である山口知事を始め副會長辻學務部長及び中村内務部長、村田社會教育課長、石坂金澤醫大學長、吉川金澤市長の各理事（澤野市會議長、小松四高校長、石黒會議所副會頭の三理事缺席）は縣廳知事室に集合し責任問題に關する對策協議の理事会を開いた、午前中は西園体育協會主事から遭難當時の實情報告があり救護班の用意がなかつたことや糧食の缺乏、天候状況等につき種々論議される所あり正午一先づ休憩、午後一時より更に秘密會に入つて責任者に關する重大協議に入つたが協會長たる山口知事は責任を負ふて協會長の職を辭すべく決意を述べ更に副會長辻學務部長および幹事村田社教課長並に當面の責任者たる西園体協主事等は何れも前後して辭表を會長たる山口知事の手許に提出した。

辞表の處置は結局會長に一任理事會の協議決せず

理事会は午後二時十分終了したが會議の主要點は辭任を申出た會長山口知事、副會長辻學務部長、幹事村田社會課長、及び西園主事の四名の處置を如何にすべきかであつたが体協の定款によれば「會長は知事をもつて委囑す」とあり會長は選舉や互選の形式によつて囑任されたものではなく何時でも知事が會長となることになつてゐるので第一に知事の辭任を認めるや否やにつき論議されたものの中にはこの際定款の改訂を行つてはとの意見も出たが結局會長一任となつた、しかして次ぎの理事會の日取も未決であるが村田幹事および西園主事の辭任は決定的である。

充分責任を感じてゐる全く世間に申譯がない—村田社會教育課長談

當面の責任者たる協會幹事村田社會教育課長および西園体育主事は理事会に對し一應の報告後退席したが責任問題について村田社會教育課長は語る。

會長である山口知事閣下も責任を負はうといつてをられるが私は私と西園君以上へ御迷惑はかけたくない、西園君と私が辭表を出したかどうかは聞かないで下さい、御推察にお任せする、しかし私自身は充分責任を感じてゐる、全く世間に對しても申し譯のないことでした。

全くの天災！設備に遺憾はない—西園体協主事は語る

理事会にスキー大會および遭難の様相を詳細報告した後西園体育協會主事は語る。

報告は社會課長及び私から詳細に理事に報告しましたがその内容は先に私が述べた通り（昨夕刊所報）でその他地圖によつて理事の質問に應じ詳しく設備や救護の状況を述べた、吹雪のために標識の倒れたやうな事はなかつたので主催者としては設備に遺漏なく唯天災的な猛吹雪のためあのやうな事になつたものです、理事会は無論善後措置等につき聞かれたものでせうが私の進退については何ともいへない、未だにそのことにつき理事会に私は何も通告していませんが、どうなるか何とも言へない、現在私の意中についても何とも言明出来ませんが理事会の結果何か決定するでせう。

スキー遭難の責任

一般の注目を惹く會長知事の處断理事会、會長の辞任を認めず結局村田、西園兩氏自決か

遭難スキー選手三名を出した全日本スキー選手権選大会主催者側の石川縣体育協會では一日責任問題に關する秘密理事会を開き審議するところあり協會長山口知事、副會長辻學務部長常任幹事村田社會課長および西園體協主事四名の辞表提出となつたがこゝに協會定款によつて「會長は知事をもつて委嘱す」とあるため即ち山口知事が協會長を辭しても石川縣知事である以上辭任を認めるには寄附行爲（定款）の改正が必要で更に評議員會の定款改正議決を経なければならぬものである、しかし副會長、幹事、主事等の任免は會長の權限に屬するもので山口知事の會長辭任問題が目下のところ先決の必要に迫られ各辭表は宙に迷つてゐるが一方山口知事は全部の責任を負つて會長のみ辭職し累を他におよぼす必要なしと聲明してゐるため今後山口協會長の處理如何が注目されてゐる。しかし會長辭任は再會の理事会及び評議員會で恐らく認められず留任となり常任幹事、主事兩名が實質上の直接責任者として辭職或は譴責の處分を受けるものとみられてゐるが村田幹事、西園主事の辭表を認める場合と雖も縣体育協會との關係を免ぜられたのみで村田幹事は社會課長兼社會教育課長を西園主事は社會課體育主事を辭職したのではない。

知事一任の際私見は控へる理事吉川市長の談

體協理事としての吉川金澤市長は語る。

「理事会としては今のところ定款を改正しなければ會長の辭任を認めるわけに行かず果してこの定款改正を評議員會に移してまで議決する必要あるものかは疑問である、會長としての知事の心中も察せられるが辭表に關する件は一切知事一任となつたもので私としては今のところ私見は何とも述べられない。」

社會教育課長も同時に辭める村田幹事の希望

なほ村田社會教育課長は單に協會幹事の辭職だけでは責任を負ふ上において無意味であり今後の仕事の都合からいつてもゆるされないからこの際社會教育課長も同時に辭したいと希望を述べてゐる。

會長のみの辭任世間は承知せぬ臨時縣會で當然問題となる

別項の如く山口知事は協會の責任を負ふて會長を辭任する旨聲明してゐるがもし知事が實質上何等苦痛を感じない會長辭任のみにて事を終へ直接の責任者たる村田社會教育課長や西園主事がそのまゝ留任することがあれば恐らく世間は承知すまじく今春招集せらるべき臨時縣會においても當然問題となるものと見られてゐる。

會長たる自分に全責任がある一任されたので再考する知事今後の問題を語る

體協スキー遭難事件に關しみづからその責任を負ふて辭表を提出し同時に辻副會長以下の辭表處置を一任された會長たる山口知事は昨日理事會における協議内容、決定事項および今後の問題等について語る。

縣の體協が主催でやつた大會に於て兎に角三名もの犠牲者を出したことは協會として無責任でをる譯にはゆかぬので取敢へず理事會を招集して相談したのである、まづ直接仕事に携つた西園主事や幹事の村田社會教育課長等から計畫、施行、救援等の真相を一通り聴取した上いろ／＼善後策について協議したが第一、三名の犠牲者およびその遺族に對しての慰靈、慰問の問題については取敢へず應急の措置はとつたものゝ、さらに當該學校等とも連絡をとつていろいろ考慮することゝなつた。つきに事件の顛末がまだ正確に世の中へ知られてゐないからこれを詳細にまとめて公開することになつた、中央のスキー聯盟その他からも照會があるのでその報告と同一のものを近く新聞へ願つて公表したいと思ふのである。しかし事實三名もの犠牲者

を出したといふことについては何といつても辯解の辭はない、明らかに主催者たる協會の失態であり責任は免れないことを理事會として承認した、たゞ當協會は行啓記念といふ沿革ならびに名稱をもつたものであり、また從來の功績も認めねばならず、さらに將來もますます縣下の体育に盡さねばならぬ團體であるから協會としては今回の事件を機として今後再びかくの如き過ちなからしめるやう努力することにした。そこで今回の失態に対する責任問題については會長としての僕は當然其責任を負ふべきものとして副會長の下に辭表を提出したが一方副會長(辻學務部長) 幹事(村田社會教育課長) 主事(西園体育主事)の三名からも責任を感じて僕の方へ辭表を出してきた、僕の考へでは副會長は會長を補佐する役であるし幹事、主事は會長の指揮命令によつて仕事をやるものであるから會長としての僕に全責任があるわけが辭職すれば足りやうと考へてゐるのだが副會長以下も辭表を出してゐることでもあり理事會でもいろいろ論議されてゐたので兎に角一應會長たる僕に一任となつた、會長がやめることについては寄附行爲(定款)において會長は知事をもつて推戴すとあるので寄附行爲改正等の問題も起らうが兎に角僕の方で再考し場合によつてはもう一度理事會を開いて圖ることになるかも知れぬ。それから中部スキー聯盟から三月頃山中温泉で大會を開きたいから世話を頼むといつて來てゐるが、この際お断りすることに決した。

昭和八年二月三日北國新聞掲載

スキーコースの施設は全くゼロ天災!では片づけられぬ山嶽スキー家日澤氏語る

去る廿九日鶴來スキー場で行はれた縣体協、鶴來体協共催の全日本スキー選手権大會第四回近縣スキー競技大會で三名の尊い犠牲者を出したことにつき体協では直接原因を猛吹雪要來による全くの天災で、設備上には萬遺漏がなかつたと稱してゐるがこれに關し過去廿數年間軍隊のスキー指導に貢獻して來た山嶽スキーの權威日澤廉次郎中佐は左の如く語る。

私は今回の慘事についてまことに遺憾に思ふものである。そも／＼あのコースは一昨年鶴來体協の方から私に實地調査を依頼されたので三人の工夫を連れて審さに踏査(山嶽スキーには度々踏んでゐる)したところスキーコースとしては十分の施設をしなければならぬ、少くとも後高と風吹峠との中間(これが最も危険な箇所)に避難小屋を造り風吹峠を一直線に下らずに

風吹の後方を迂回してなだらかに降りた方が最も理想的だからこのコースを選ばねばならぬそれには相當の費用を要するのでその間私が工兵隊に赴き工兵隊長が公共事業のためなら工兵の作業でやつてもよいとの好意を示されたので兵隊百五十人一週間の宿泊と食料とを鶴來の方で何とかしてくれとのことで交渉したが費用も出道がないとのことに折角の計畫も中止されたもので、大体一コースに急坂が二つもあるのは嘘です、小原から後高にいたる坂があれば風吹峠の方を通らぬ工夫が要る、恐らく今度の犠牲者は後高に登るまでに心身に疲勞を來したものと思ふ、天災の猛吹雪に一切罪を着せることはできまい、下にあるこの頃の猛吹雪が豫想できぬとは山嶽スキーヤーの資格がないと思ふ、なほ當地方のやうな濕雪には餘程注意しなければならぬ。しかも一時に降り積つた雪に……そこへレース用の巾の狭いスキーでやるといふことは身体に過度の疲勞を來たすことはいふまでもない、私は兵隊を連れてさへ雪の質をみて中止した場合がある、戦闘上には是非ともやらなければならぬときは、それこそ決死的敢行ですが……それが中等學校のレースでないか、ともかく當日の設備は十分であつたかも知れぬがスキーコースとしての施設をやつてゐないことはあきらかでこれは主催者としての重大失態であると斷言して憚らぬ。

以上新聞記事に依り事件經過の梗概及責任當局の之に對する態度の一端を窺ひ知ることが出來やう。茲に於て吾人々權擁護の立場に立つものとして同時に社會人としてこの問題に對し如何なる處置を執るべきか退いて成行を靜觀すべきか果又百尺等頭一步を進めて事件の真相を極め責任の歸屬を明かにし若し法律上の責任が主催者側に在りとせば——彼等の云ふが如く遭難が不可抗力に因るにあらずしてスキー選手之死が事前若しくは事後に於ける過失に因るものとせば——飽く迄當局の責任を糾弾し権力の城壁を破壊して大衆の蒙を啓き以て我國スポーツ界發達の一途に資すべきか昭和八年二月一日金澤辯護士會は裁判所構内辯護士室に臨時協議會を開いた。集るもの殆ど全員協議に入り直ちに全員協議會の名の下にスキー遭難事件調査研究會を組織し寧ろ後者を選ぶことに決定した。即ち調査研究會の組織は左の如くである。

會長齋藤彌生、副會長重山徳好、調査委員長關戸寅松、調査委員横井伊佐美、廣瀬嘉一、大槻了、志保谷正義、神保重吉、山本文吾、北山八郎、豊島武夫、堀勝介、盛口金作、金山又三郎、益谷幾藏、塚本助次郎、前川吉榮、研究委員長乾亮、研究委員藤崎小三郎、村井清造、太田時一郎、村澤義二郎、地田親雄、乾健多朗、今島廉藏、吉井政治、得田耘
尚調査研究事項としては

一、スキー豫選大會の組織
 二、遭難者を出したるは主催者側の故意過失に起因するや否や
 三、責任者の範圍
 四、スキー豫選大會に付施すべき設備注意如何
 五、遭難事件に關し主催者に故意過失ありとせばその民事上刑事上行政上の責任如何
 の各項を決定した。次いで主査委員を塚本、前川、村井、村澤の四君に委嘱し前川君は直ちに自動車を驅つて市内古寺町木谷家、小立野小西家の各遺族を訪ひ慰問し夫々事情を調査するところがあつた。翌二月二日午前川、村井の兩君は市外野々市町なる遺族井關家を訪ひ慰問の辭を述べて辭した。同日午後豊島、前川、村井、吉井の四君は石川縣廳に縣体育協會幹事にして縣社會教育課長たる村田八千穂氏を訪ひ大會の組織及當時の事情等に付詳細聴取して引取つた。
 吾等は尙進んで事態の全般的調査研究をなすの必要を感じたのでスキー遭難事件座談會の名を以て大會十八軒レースに参加した各選手、遭難者の各遺族、スキー界の權威、スキーに關係を有する醫學者等を網羅した座談會を開催し事件の真相を確定的のものたらしめんことを企圖し翌二月三日午後三時より市内石浦町仙寶閣に於て開催した。集る者六十三名、先づ齋藤會長の挨拶あつて關戸調査委員長を座長に推し横井委員の注意があつて座談會に入り各選手の赤裸々な當時の實見談、遭難者父兄の救護實況の報告があつて晚餐を共にして小憩後再會、齋藤會長座長となり日澤中佐、藤本、島兩醫師、北村藤花女學校教諭等の實談及専門的見地より見たる意見があつて午後八時半散會したが非常の盛會であつた。當日の詳細の模様は左に座談會速記録を以て之に代へやう。

金澤辯護士全員協議會主催
 スキー遭難事件座談會

日時 昭和八年二月三日午後三時
 場所 金澤市石浦町仙寶閣

出席者

- 縣立金澤第一中學校 坂田先生、國部昌清、張江武、長瀬武、南重孝
- 縣立金澤第二中學校 瓜生省一郎先生、堀田善二、木谷清喜貞、川上寛
- 縣立金澤第三中學校 河合利雄、櫻井弘、福田準次郎、安本正隆、塚本一男
- 縣立金澤商業學校 上野先生、藤垣先生、大野喜八郎、林忠男、西原雅
- 市立工業學校 大賀先生、宮元先生、河村甚吉、中川清太、矢戸喜宣
- 私立金澤中學校 本多先生、藤澤豊明、正木正亮、松林政雄
- 遭難者遺族 小西仁三郎、小西直秀、井關信次、木谷清喜男
- 日澤廉次郎中佐、醫大藤本弘次郎、同上野兩醫師、金澤電氣水道局木津伊三郎、
- 島誠部醫學博士、藤花女學校北村伊三郎先生 其他新聞記者、辯護士多數

齋藤會長 簡単に御挨拶申上げます、今回私もが主催致しました、過日のスキー遭難事件に對する座談會を催しましたところ遺族の方々を始め多數競技に参加せられました方の御列席を得ました事は私も主催者として甚だ欣幸に存する次第であります、今回のスキー遭難事件は全國でも殆んど餘り類例のないことでありまして、それが個人的の催しで山岳にスキーをやつたといふ場合でありましたならばこれはあらかじめ危険もしくはさういふ風な場合に遭遇するかも知れないといふ事を、あらかじめ参加される方は覺悟をされてをられるであらうし又さういふ場合においてかくの如き問題が起つたといひましたならば餘り世間も重大視しなかつたかも知れません、所が私もから見ると今回のスキー豫選大會といふもの

は或は競技スキーとしてやられたものであるか若くはそれが山嶽スキー……各地方に於て行はれる團体的又は個人的に行はれるところの山嶽スキーといふものと混同されてその結果がかくの如き不祥事を起したのではないかと思はれるのであります、さうしますとそのコースの選定如何といふことで御座いますが、あるひは間違ひがあつたのではないか、初め主催者側がコースを選定するにあたりまして充分な注意が足りなかつたのではないか、従つて世間の非難は今回の主催者に對してしまして轟々としてあるのであります、殆んど父兄とされまして……子供を學校へ出して置かれる父兄はかういふ問題が起つたといふことに對しては非常に將來の競技といふものに對して不安を持たれるであらうと思ひます、いはんや主催者が縣の体育協會であつたといふ場合に置きましてはなほさらであらうと思ひます、殆んど各人の意見といふものは今回の主催者に對する呪咀の聲をもつて滿ちてゐるのであります、それ程重大な社會問題を惹起してゐるのであります、所がこの問題に對し各自言ひたいところもありませうしまたいろんな批評を下したいといふ方もたくさんあると思ひます、スキーに對して殆んど知識のないものでも、スキーに對する知識のある人はなほさら批評の言葉があらうと思ひます、しかし批評は個人としてはしにくい問題であります、私どもの立場がさやうな企てをするのに最も適當してゐる團體と考へまして結局この會合を催したのであります、尤も縣体育協會を糾弾する事のみが目的ではない……あるひは吾々の企てに對し誤解されてゐる方もありはしないかと考へます、辯護士側が徒らに騒いで面白半分をやつてゐるのではないか、或ひは民事々件、刑事々件でも起させやうとしてゐるのではないか、そんなことを考へられる方が或はなきにしもあらずと考へるのであります、しかしながら私どももいたしましては、左様な考へは微塵もない、この点につきましては學校側は幾分憂慮されてゐるのではないかと思はれるのであります、學校の責任を私どもは問ふのではない、また徒らに縣當局の態度を非難する目的で開いたのではない、要は新聞紙上におきましていろいろ参加された各位の談なり御意見なりが出てをりますが未だ徹底してゐるとは考へぬのであります、それでかくの如き座談會を開きまして忌憚のないところを實際参加された方々から實際の状況はかうであつた、あるひはまたかうして貰へればよかつたといふやうな即ち實驗談をき、今後に對する希望を忌憚なく發表して頂いたならば將來スキーをされやうとする方々の參考になるのみならず縣當局の態度が甚だ曖昧であつたならばこれも責任を明らかにする必要があると思ひます、事實私どもはその責任者に對して面會してゐるわけではない、その言質を得てゐるのではないがたゞ新聞紙上によれば甚だ當の責任者は無責任なことを言つて居る、即ち天災、不可抗力であるといはれて

あるやうに見受ける、果してそれは不可抗力であつたかどうか疑問である、眞にそれが不可抗力であつたならば致し方ないが……けれども不可抗力であつても、いつ何時どういふ不可抗力が来るかを考へねばならぬ、事實不可抗力であつてもそれに對し相當の設備をするのが至當ではないか、もしもそれが不可抗力でない相當の設備、注意が完全であつたならばかやうなことが出来なかつたといふならば尚ほ更である、これを要するに諸君の御意見を忌憚なく發表して預いて社會の輿論に訴へ私ども研究の資料にいたしたいと思ふのであります、結局將來に對する豫防とこの際果してそれが不可抗力であつたかどうかといふことだけを明らかにしたいと思ふのであります、またこの席上には遭難者の遺族の方も御出席になつてをられませんが、この方々に對し私どもから深く御哀悼の意を表する次第であります、その御意見もき、將來再びかういふことがないやうに……過ぎたことは仕方がないとあきらめてをられるかも知れないが……實際かういふ問題に遭遇されて遺族の方々は事實あきらめきれないものと思ひます、けれども將來かやうな不祥事がなければ遺族の方にとつても幾分慰むるところがあらうと考へます、かやうな趣旨で私どもはこの座談會を開いたのであります、この点につきまして誤解のないやうに私からお願ひしてをきたいのであります、それで座談會の進行上司會者を選びまして、司會者からそれ／＼各自の御意見を發表して頂くやうにしたいと思ひます、司會者には關戸寅松氏を私から指名致します。

關

戸 潜越で御座います、司會者には關戸寅松氏を私から指名致します。かゝる推察をせられました、この点は御承認を得たいと存じます、就きましてはいろいろの事を皆様に御伺ひしたいので御座います、其御伺ひいたします要点だけを申し上げせんと話が混亂するおそれがありますから大体だけを申し上げておきます、それから従つてお話しを願ひたい、それは大体において二つに區別をいたしましてその第一は今回のスキー競技施行に關します物的設備についてお伺ひしたいと思ひます、この内をまた四つに區別いたしました、今回の競技に就きましてコースの選定が果して適當なりしや否や、第二には危険の豫防に關します設備が完全なりしや否や、第三が危険が発生いたしました場合これらの救護に關する設備が果して適當なりしや否や、第四は危険が発生した場合の救護方法をいかに豫定せられてあつたか否か、第五には豫定せられてあつてもその救護が充分なりしや否や、これら五つの点をお話し願ひたいと存じます、第二には競技に關する人的設備とも申し上げやうか、これもまた二つに區別いたしました、参加された學生諸君の体格技能に關する調査はどういふ風になつてゐるか、第二には競技前の御注意がどういふ風になつてゐるか、これらの点をお話し

し願ひたいと存する次第であります、それからなほそれで十分なとは申し上げることは出来ないのではなほ不十分な点があれば大体これらの点のお話しを願ひたいと存じてをります、その順序でお話を願ひたい。

横 井

只今關戸座長の方から申上げましたのをもう少し細かに申上げたい、それは私はコース其ものに就いては知りませんが、山岳といふ事について多少の趣味をもつてゐるので、新聞に發表されたスキーのコースを見ますと甚だ私もから見ますと危険が伴ふコースであつたやうに考へるのであります、これは私もは素人であり、スキーといふ方面から見れば危険がなかつたかも知れないが……私の考へて見るところによれば今の地圖に示されてゐるコースは後高と風吹峠といふやうな危険な個所が含まれてゐる、十五六歳の子供を走らせて適當でないと思つたかどうか、これは私も誠に不安と申しますか、果して適當であつたかどうかといふことを疑がうのであります、更に私もから見ますと危険な個所であつたならば充分に危険に對する豫防方法を盡さねばならぬ、普通今日民間に行はれてゐる自轉車競走あるひはマラソン競走といふ場合でも萬一の危険を慮つてこの危険に對する豫防方法を講ぜられてゐる、この危険豫防に對する取締り方法をどういふ風に盡されてゐるか、新聞では殆んど臆に落ちない、更にもう一步進んで見ればこの危険が発生した場合……体育協會の仕事であるから相當の設備があつたであらうが萬一の準備が出来てゐるかどういふ方法を盡されてゐるか、いふまでもなくさき程申しました、自轉車競走、マラソン競走にいたしましても最後には係りをして落伍者、遭難者がなかつたかといふことを後で調べてある設備がある、今回はそれがなかつたさうであります、甚だしきに至つては、事實かどうかお伺ひしたいと思ひますが……あるひは第一關門を出てしまつたところを引上げ、第二關門を通過してから通るものがないとサツサと引きあげてしまつ、果して落伍者が出来たかどうかを詳細に調べてゆく方法が出来たかどうか、私も新聞記事を頼つてゐるためかやうな疑ひを生ずるのであつて……あつたならば私は皆様にその点を承つて見たい、甚だしいのは引きあげてしまつて第二、第三の關門の場合には結びはみんななくなつてゐる蜜柑が二つしかなかつた、そこに落度か何らかあつたためにかやうな不幸な前途ある青年三名を殺してしまつたのではないか、このことを深く疑ひもした心配もした考へてをる、これらの点について充分のことを承りして、私も法的に研究してみたいと思ひます、更にもう一步進んで申しますならば参加者の方々に對して調査方法が行き届いてをつたかどうか、参加者の体力或ひは技能の調査をしてあつたかどうか、参加するだけの自信は持つてあつたかも知れませんが、大丈夫といふ考へはあつたかも知れません

が果してこれを競技する方面から見、主催者側から見ならば果してどういふ風になつてゐるかどうか、充分の調査が出来てゐるかどうか、これを尋ねて見たい、なほその競技をいたします事前において皆様にどれだけの注意を與へてあつたか、私も判らぬかも知れませんが競技に参加する人達はあらかじめ競技するだけの個所を見て置く筈であると思ふ、普通の競走の場合でも學校あたりでは石一つでも注意して、それ〴〵設備が出来てゐることを私もは見受ける、かやうな山岳の場合において積雪何丈といふ場合に萬々の場合においてどうすればよいかの注意が参加者に出来てゐるかどうか、それについて如何なる考へをもつてをられたかどうか、これらの点について皆様の御意見を承つて私も、研究もした責任をあらかじめした方が適當でないか、さういふ事柄が私どもの間に問題となつた次第であります、これらにつきまして参加された方は申すまでもなく御指導になりました方々のこれらの問題について忌憚なき御意見をお聞かせ願ひたい、學校關係の方におきましては上司に對する關係、縣の方から細かに發表してゐない今日において發表するといふ御懸念もありませんがさき程から齋藤、關戸氏から申された通り吾々は爲にする爲に騒いでゐるのではない、將來に對する注意を喚起しスキーの進歩のために盡したいと考へてをるのであります。

重 山

本日の議事は逐條的に御審議を願ひたい、初めから數ヶ條あけられず各ヶ條について一々お調べを願ひたい。

座 長

(以下司會者側の發言は全部座長とす) その通り致します、それでは協議に入りたいと思ひますが第一にコースの選定が適當であつたか否かといふことについてお話しを承りたいと存じます……只今の点につきまして議事の進行上こちらから指名を致しましてお話しを願ひたいと存じます……二中の先生の瓜生さんはよくかやうな点は御承知のやうに承つてをるのであります、瓜生先生からお話しを願ひし氣のつかれたところが御座いますればまたどなたか立つて御説明をお願ひしたいと存じます、是非さういふことにお願ひしたいと存じます。

瓜 生

コースは前に十八キロをきちつとるといふ事になつてゐたさうであります、前日に五キロばかり切つたと聞いてをります、私はそのコースを全部廻らないからコースの事については私言ふ資格はないのであります、しかし木谷を翌日早く……六時十分過ぎでありました、発見のために準コースを取つて上つたのであります、それで私たちが木谷の発見せられた約一キロばかり近くまで辿りついたのであります、その時向ふから死体が発見されたといふことを聞いて下りたのであります、その私の辿りついた位置は第一關門のヒュツテを少し登つたところであり、そこまでゆくコースであります、

相當ひどいところもありますが兎に角私の登つた時には吹雪もありませんしよく見透しがつきましたので左程苦勞もせずそこまで参りました、そこから先は私はゆかず知りませんが、何でもコースは十八キロをその日になつて五キロ落したといふことを私は聞いてをります、コースについて私はそれだけしか事實判りませんが、申し上げることも出来ません。

座長

誰がこの競技に参加された方で發言を願ひたいと思ひますが、學生の方でも先生の方でもどなたでもよろしいが、二中堀田 經驗もないものが始めてあのコースをとる事を考へて見ますと、あのコースといふのは出るから平地がありましてそれから上りがグツと續いてゐる、石川縣のスキーレースの程度を考へて見ると、あれだけの上りを上ると相當に疲れる距離にしさほどないが非常に疲勞を覺える、倒れるとまでゆかないが優秀な人々だけがそれから活動する力を残されると考へます、あれだけの上りを上るとすぐに風の強い尾根、山の最も風のあたるところへ曝け出して……尾根が何町あつたか記憶がないが……あれだけの尾根を傳はせたといふのが遭難者の倒れた第一原因でないかと思ひます、それで僕の考へであります、日本が日本のスキー界の權威者である麻生さんが今年お出でになつた時に相談してコースを取つて頂いたらあの事件は未然に防げたのではないかと考へます。

座長

コースを定めたいのは圖面が實際に踏んだのか聞いてをられませんか。

堀田

その点はきいてをりません。

堀田

當日朝そのコースに關して何らかの説明があつたか否か、説明がなかつたかお話しを願ひたいと存じます。

堀田

開會の辭の時にコースは本當に十八キロない、相當吹雪くかも知れないから毛のもの一枚位は着てゆき、食料も少しは用意してあるが空腹で出發しないやうといふやうな注意があつた。

瓜生

坂が二ヶ所あつたといふがどの邊ですか。

堀田

上つて尾根を傳つてゆくのであります、尾根へ上るところが最も苦しかつた、それから尾根を出てから少し上り下りあつたがそんなにひどくなかつた、それから下へ下つてスキー場の横へ上るところがあつたがそれもひどくなかつた、最初の上りが最も長く最もひどかつた。

座長

その上りは大分長い上りですか。

堀田

最初の上りは細い道です。

堀田

後谷の方へ通ふ道ですが、後谷の方への道がありますネ。

堀田

とてもギツクザツクになつた道です。

座長

それでは一中の園部さんが御承知のやうに思ひますから只今の点の説明を願ひたい、最初司會者からコースの説明があつたかどうかまたコースについて如何なる實際標示があつたかどうかお話を願ひたい。

一中園部

僕はあの時は開會式に間に合はなかつたのであの話は全部知らないものであります。

上野

大會前ある時体協主事の方からコースについて二三承つた話があります、それは体協主事はかつて飯山、野澤等のスキー場十八キロコースを踏査されたことがありました、さういふ經驗から押して見て今度の鶴來十八キロコースは決して無理なものでないといふ話でありました、僕は三年前に野澤の十八キロコースを踏査したことがありました、可成り困難なものでありました、これはスキーのルールによりますと十八キロの三分の一即ち六キロは平地で、六キロは上り、六キロは下りを造らえる譯であります、六キロの上りと下りをつくるにはどうしても山を利用しなければならぬのであります、私は現在今度のコースは参りませんでしたがいゝろんな話を聞いて見ますと長距離レースの過半は無理なものでないやうに思ひます、かうした……

上野

上野さんは大會に役員になつてをられた筈ですが……

上野

廻轉競技の出發合員で……

上野

出發する前に生徒にコースの内容その他注意すべき事項など司會者から説明ありませう。

上野

地方の大會におきましては競技會の前日に競技に参加する生徒を集めてコースを發表する例になつてをり今度の大會には話によれば前日に學校のスキー部の方へそれぞれ報告したがその時集まつたのは四五人しかるなかつた。

上野

書面でも配つたのですか。

上野

さういふ書類を學校の方へ廻つて來た、學校のスキー部の方へさういふ通知が來た……

大 賀

コースは發表することになつてゐる、競技者はそれについて本人若しくは代表者がコースを聞きに行くといふことになつてゐるので、先日の大會におきましてはその規定によりは選手は聞きに行つたので……實際参加者全部でなくて……上野さんは今四五名とおつしやつたがあの時はきくと十四五名と聞きました、最初四五名だつたがあとから一人二人づゝあつまつて實際は十四五名が規則に従つて来たやうです、片方は知らせなくてはならぬし片方は知らなくてはならぬ義務がある。

名古屋新聞石田

あの時僕は競技場で一等になつた明大選手の話を聞いたのですが山岳スキーに経験ある相當な選手でもあゝいふコースをやれば大抵の山は突破出来る難コースだと言つてゐた。

座 長

ちよつと議事の進行上お伺ひして置きたいのでありますが全コースをお廻りになつた方は一中ではどなたですか。

一 中 園部、南

二 中 堀田、野村

三 中 ナシ

市立工業 中川、矢戸

商業 大野、西原、林

金澤中澤 倉

座 長

さうしますれば全コースをお廻りになつた方からお伺ひしたい、コースの標識はどういふことになつてゐるか、それを一つお伺ひしたいと存じます、商業の方から御説明を願ひたい。

商業大野

僕が廻つた時は尾根の方のコースの布は判つたが……出發した時判つたが尾根は旗は判らなかつた。

座 長

それは吹雪で判らなかつたのか。

大 野

エ、前に行つた方のスキーの跡も何も判らなかつた、關門、第一關門に行つた時に神樂をくれました、第二關門に行つた時には何かいらぬかといつたがいらぬと答へ第二關門で十分程とまつて誰か後から來ぬかと思つて待つてゐたが誰も來ぬのですぐ行つた、第三關門は番號だけ言ふて通りすぎた。

座 長

關門には何人程をりましたか。

大 野

第一關門に二人、第二關門に一人、第三關門にはをらなかつた、中から何番かと言つただけです。

座 長

出發前コースの標識はどんな風になつてゐるとかいふ説明がありましたか、標識の数はいくつ位ありましたか、赤旗は何町おき位……。

大 野

出發する時は十米おき位にあつたやうです。

座 長

そのコースは標識の旗を頼つて行くより仕方がなかつたのですか。

大 野

旗を頼つて行つた、大會はいつも旗を頼つて行くことになつてゐる。

座 長

コースについてはこの程度で終りましてその次の危険豫防に關する設備につきましてお話しを願ひたいと存じます

大 賀

私も計畫者ではありませんし實際コースを歩いて來た譯ではありませんからあとから話を聞いたといふ程度のものでございますが、コースは道を間違はないやうに赤旗を立てるといふ規則はありますしその通りにしてあつたのであります

何町おきといふことはありません、規則にもありませんから間違ひ易いところに赤旗を遣つてゆけば行けるといふ風に赤旗をたてるものです、さき商業の方から尾根の上から赤旗がなかつたといふお話がありました、成程吹雪のために見えなかつたといふこともありませうし尾根の方は吹雪さへなければ見透しのつく所でありまして平地の林の中を行くよりも旗の数は少くともよいやうに思ひますのみならず當日午前六時に鶴來の人達が十何人か足跡をつけるために登つてをりますから尾根の上は見透しがつくといふことゝ、コースはシユブール、足跡をつけてそれを辿つて行けばよいといふ点から平地におけるよりも赤旗の数は少かつたかも知れませんが、それで天候さへあゝいふ風でなければよかつたといふ……山の吹雪は平地で想像する以上で一間先も見えないといふことはすぐなるから何町おきかにおいてあつた赤旗が見えなかつたといふことは走つてをつた人たちにはあり得たかと考へます、山のヒユツテには監察員が二名づゝをりました、監察員といふものはコース上においてレース上不正を監督するとか危険があれば無論救助にあたるのでありますけれどもとにかくヒユツテは三つありますし各ヒユツテに二名づゝの人がをつた譯です、そこには食糧品としましても握り飯七八ツ位持つて行つた筈と思

ひます、これは競技規則によると十八キロのレースはスキーで申しますと短距離競走ですが短距離競走では食料品を與へるといふことではない、三十キロ五十キロは長距離耐久競走といひこの方では二ヶ所で食料を與へなくてはならぬことになつてゐる、主としてそのために食料品の準備があつてなほ餘分のは十八キロでも空腹を感じてゐるものにはやつてよいといふことに食料品の準備があつた譯であります、氣付薬、簡単な醫料藥品は多少準備してあつたといふことは聞いてをります、救急の設備としてはそんなもの考へてをります。

座長 實際はどうでしたか、食料が足りなかつたか、充分あつたか、あとに來た人が非常に空腹だつたと聞いてをりませんか。

大賀 さきに行つたものが少し食ひすぎであとになかつた、本當の空腹を感じたものに潤澤にあたらなかつたといふ形跡はあるやうです、これは人から聞いた話ですが……私自身は詳しいことは存じないが……。

座長 只今お話し願つてをります点即ち各關門には監視員と申しますか、その方が通過の際をつたかどうか、食料のことについて、標識のことについて全コースをお廻りになつた方に一人々々伺ひたいと存じます、それで指名いたしますから、お知りになつてゐるかぎりお答へを願ひたいと存じます、市立工業の中川さん……。

市工中川 僕は今度始めて出たので外の競技に出るゐないので判らないのであります、が事實のまゝ私の事を申上げて見たいと思ひます、まづ僕たちは、小西君も井岡君もさうであらうと思ひますが午前六時頃御飯をたべて鶴來へ行つてスキーをはじめたり何かしてゐたら開會だといふので集まつた、それが午前九時頃だつたと思ひます、それから開會の辭があつて十時頃といふ頃うちに非常に出發まで時間が切迫してゐたので、いろ／＼發會の時に會長さんから話しがあつたが御飯をたべるといふ暇もなかつた、遅くなるといふのでみんなキョト／＼になつてゐた、御飯をもつといふ餘裕もなくみんな集まつた、そして僕は中頃で出たから出發した、初めの上りは道に赤いしるしがつけてあつた、これは判つた、僕はコースは全部あり吹雪にもあはずどうにか行けたが尾根のところでは少し吹雪にあつて赤い印なんか見に行けなかつたんです、前に行つた人のスキーの跡がどうにかかうにか判るなといふ位で心細いながら行つた、木の蔭にスキーの跡があつたので喜んで行つたさうして第三關門まで行つた、言ひ落しましたが第二關門でしかあの時お結びを貰つたんですがあすこの番をしてをられ

る方が左手に竹の皮の筥に握飯をもつてこられたのですが一つもらつて喜んで行つた、あとに五つ位あつたと思ふ、まだ小屋の中はまだあつたかも知れないが……四つか五つしかないやうに思つた、さうして最後の關門を越え急な四十度位の二尺位の木が澤山生えてゐる岡がある、そこをズツておりました、そこまでは充分行けたんです、下りてこれで安心したと思つて歸つて來たんです、僕は實際のまゝ申上げればこの通りです。

座長 第何番目ですか。

中川 四十番だから大分あとだと思ひますが僕の前に十五六人ゐたやうです。

座長 實際競技に加はつた人は廿四五人だといふが……。

大賀 三十人です。

中川 着いたのは一時五十七分ださうです。

座長 全コースの間どれ位かゝつてゐるのですか。

瓜生 大体十時廿五分位に出てをりますから三時間位ですネ。

座長 全コースは何時間で終る豫定だつたのですか、三時間位といふ……次に工業の矢戸さんにお伺ひしたいのですが……。

市工矢戸 十八キロレースに僕は廿六番目で棄権された方もあつて十人目位だつたと思ひます、スタートして平地滑走の方は道には幅一寸長さ五寸位、長いのは七八寸もあつたらうか、赤いキレが木の枝にさけてあつてこれは判りました、それから第一關門のあるところまで相當辛い坂がありコースは判つた、第一關門は炭焼小屋のやうであつて幅一尺位の旗でわかつた、こゝが第一關門だと嬉しいやうな氣がした、中から人が出て來て神樂を呑んでゆけといつたので神樂を呑んでコースを走つた、一番目の小屋から二番目の小屋へ行く間は相當につらかつた、その間に監視人といふ人を二人ほど見つけました、そこから頂上へ上りまして馬の背といふ危険なところがありました、そこを過ぎる頃から相當に吹雪いて標識なんか雪の中に隠れて相當困難でありました、コースは十間程前に行く人の姿は見えるがコースは全然判らぬ、ボツリ／＼と見える赤い標識を頼りにコースを走つた、一番目の小屋から二番目の小屋に二人程監視人を見ただけであとは見なかつた、三番目の小屋へついた時空腹をうつたので一服しやうとすると、何番ですかときかれたので休む氣になれずコースを續けた、風

吹峠は相當に吹雪いて僅かに見える標識を頼りにそこまで行つては次の標識を認めてどうやらかうやら下まで下りつけた。

座長 そのコースは途中煙木なんかあり前日嫌できつてスキーをやるのに危険だといひますが……。

矢戸 下の方はきつてあつたが第三關門附近はきつてなかつた一尺二尺位出てをつたところがありました。

座長 さういふところは思ひきつて走れないですか。

矢戸 三つて轉んで下りたやうな譯です。

座長 二中の堀田さんに今の点を……。

堀田 第三關門をすぎるまでところへ、嫌でズバリくきつてあつて随分危険だと思つたことがありました、第三關門の

向ふでは標識の旗も少く全然木も切つてなかつた、平生足も踏みこまないやうなところがありません、食料は第一と第三の小屋で水を呑んだだけで全然知りません、出發番號は七番だから五人目か三人目……その前に僕の學校の小島先生が出てをられたから全部で五番目です。

座長 もう少し平たくお話しを願ひたい、證人調べではないのですから、次に一中の國部さんにお願ひします。

一中國部 六十九番で一番最後です、丁度出發する時に天候もだんぐり險悪になつてきました、雪は少し降つてゐた、それで僕の友達で選手の中山君がよしたらどうかと止めましたが僕はやるよと言つた、レースだったので極めて身輕にしてユニホーム一つ、手拭もないし食料品としてはキヤラメル六つに針金五尺、補助のビン(り)一挺です、手拭ひ一筋、十一時ちよつと前に出た、出た時は赤い指示標は第一關門まで判つた、途中七曲り邊から大分風も強くなつた、だんぐり身体もつかれた、七曲りでは僕は疲れました、第一關門に入つた時に三中の人が入つて来るのに遭つた、第一關門で小西君がお結びを喰つてゐた、僕は欲しいと思つたがそのまゝ通りすぎやうとするとそこで神樂を呑まされた、氣持が悪くて雪を喰つて出かけた、「御免々々と通ると」お結びを喰つてゐた小西君が僕のスキーの跡を追つかけて来た、五米程はなれて……折角追ひ越したのを越されては大變と進んだ、第一關門を出てから五分位たつてから木谷君の弟さんに出會つた、その時雪を喰つてゐたが僕に何か喰べるものはないかといつたのでキヤラメルを六つ持つてゐたから二つ分けた、一緒に行かうと二十間程行くと木谷君は僕は遅いから先に行つてくれといつたので僕は先に行つた、また五分位たつた時今度は井關君にあつた、井關君

は木谷君程疲れてゐなかつたが「一緒に行かう」といふと「あとから友達が来るから先に行つてくれ」といつたのでさきに行つた、第二關門で見透しがきくので見ると上つて来るのが見えた、第二關門に二人の人がゐたので二人倒れてゐるからと告げた、第二關門の人は雪の上に胡坐をかいてゐたが、リュックサックをかついで出かけた、その頃から荒れて指示標は見えないシユブールの跡を辿つて行く積りで……僕は開會式に遅刻したので何にも聞いてゐないのでシユブールと赤い指示標を辿つてゆく積りで出かけた、赤い指示標は見えない、シユブールも見えない、固いところは通れるがシユブールを外れると膝のところまで雪があつた、成だけ外れないやうに走つた、段々寒くなる身体はシビれる、疲れてゐたけれども一生懸命に走つた、それから金澤商業の西原君にあつてキヤラメルを一つつけて二人で頑張つて行かうと出かけた、西原君に會ふ前にストアップがきれて崖のところへ四五間轉つてしまつたのもうレースは駄目だと思つた、身体は雪で鏝でも来たやうにバリノする背中が雪が入つて来る、馬の脊のやうになつてゐるところで商業の西原君にあつた、僕はこの時餘程疲れてゐた、二人で一緒になつてゆくと木谷君の兄さんにあつた、三人連れだつてお互に勵まし會つて行つた、その時はもう赤い指示標は見えない物凄い風だ、醫王山を越した時より凄かつた、あれ位の風には會つたことがない、もうコースがさつぱり判らない、身体はしびれる、お互にさきになり後になり少し行つてはとまつて見たりして三人で勵まし合ひ第三の關門に辿りつきスキーもみんな脱いでヒユツテに轉がりこんで何か喰べさしてくれといつたらおむすびを二つくれたのでそれを貰つて喰べてしまつた、番號が一番終りだと話をしてゐたら背中の氷りついてゐたのが解けてびつたり喰つゝく位、卅分程休息をよつと、一時前です、ちや行かうといふのですぐ飛び出した、その時白山スキー倶楽部の笠置君が出發した、出る時お酒を少しもらつたら身体があつたかくなつた、笠置君がさきになつて、コースを聞いて行けばよかつたがそれもきかず、出る時張江、長瀬の兩君が入つて来た、後高の頂上を越した時は指示標は判らずシユブールも見えず初め笠置君は、僕のスキーが短かいから笠置君がラッセルをやつてやるといつてやつてくれたので僕はさう疲れなかつた、風吹峠の天邊まで行つた時に途中十八キロのコースを間違つて五十キロのコースに入つた、行かうといふので赤い指示標は見えないがこれから下りだといふので目見當で突きとばし大分行くと赤い指示標がついてゐた、段々下りになつて蘆谷の中腹についた時は僕の方がスピードが早くなつたので失禮するといつて先に出た、急な坂を下りると文字山の頂上へやつて来た、變なところへ来るな

と思つた、少し来ると林君がゐた、もう顔も凍傷を起してゐた、手もやられてゐた、しつかりしろと起した、起した時は、「寒いなア、なんか着せてくれ、喰べ物はないか」といつたので、喰べ物はキャラメル一つしかなくかつた、皮をはがうとしたが手が利かないので皮なりで喰へといふと、「ひどいことを言ふなア」と言つた、「着るものはないか」といつたが僕はリースだからと思つてユニウホーム一枚しか来てゐなかつた、そこへ笠置君が入つて来た、スグ知らせに行くといつて下へ下りた、そこから少しゆくと少し木が生えてゐた、大きな木がある、そこは卅五度位の傾斜になつてゐてそこからだん／＼ゆるやかになつてスキー場になつてゐる、霧があつたのでスキー場が見えない、スキー場からよほど離れてゐるものと思つて一生懸命に介抱してゐた、森の奥の方へ入つて風を少しよけ林君の背中を叩いてゐた、すぐ眠りにかゝるので「起きろ／＼」と背中を叩いてゐた、始め林君に會つたのが一時頃だつたんです、一生懸命待つてゐた、一時間位たつたかネ、林君がすぐ寢てしまうものだから杖で背中を三べんぐらゐ毆つた、首をもつておきろ／＼といふと眼をボカリとあけて上の方を謝の死んだやうな眼をして見た、下の方を見てくるから眠つちやいけないと林君を樹に寄りかゝらせて傾斜面を下りて見ると鶴來の町が見えたから「オーイ／＼助けてくれ、助けてくれ！」と大聲で叫んだ、林君がまた寢てゐるので走つて戻つた、顔をひどく凍傷を起してゐるので手拭ひでこすらうと思つたが手拭ひはきれてゐた、鉢巻をさせてやると「頬冠りをさせてくれ」と言つたので頬冠りをさせてやると「冷たいナア」といつてまた眠りつゝけた、また叩いてオーイ／＼と下の方を呼んだ林君が倒れさうになるので身体を起して立たせながらおきろ／＼と叫んだ、林君は時々眼をあけて「オーイ」と返事をすする、五六回も往復して叫んで林君を介抱してゐたがそのうちに下の方から返事があつた、その時は僕は寒くなつた、冷たくなつて自分の身体も震へてゐた、林君の方へ戻つて来た時は林君は返事がなかつた、人のゐない森の中で死んでくれるのは氣持が悪いナア、僕もやられるかも知れないと思つてまたオーイ／＼と叫ぶと下からの返事がさつきより近くに聞えた、また呼んだ、三べん目に人の影が見えた、もう何分待つたら来るかといふともう廿分待て、といふ、しばらく経つてもう何分かといふともう十分……もう五分……と呼び合つた、そのうち下の方から一中の下村、岩田、古田三君がスキーを履いて杖だけを持つて肩の方から雪だらけになつてやつて来た「誰か」といふと「僕だ」と答へる「園部か」といふので「下村ぢやないか」といふと下村君が「林ぢやないか」と飛んで行つて林君に飛びついて泣いた、林君はその時冷たくなつてゐた、僕は悲しくなつてしまつた、それから救援隊三人に、商業の方が一人来てくれて助かつた、人が来てくれたので僕は變

な氣になつてボカンとしてゐた、そこでみんな連れ立つて下へ降りた時は日は暮れ時間も六時頃ぢやないかと思ふ……。

座長 林君のところへ行つた時は林君は自分で動くことは出来ない状態であつたかまた自分で這られたか……。

園部 早く歩くといふことは出来ない、歩くだけの力はなかつたと思ひます。

園部 それから救援隊の来るまでの時間は……。

園部 三時間位ぢやないかと思ひます、一時頃に林君のところへついで下へ降りたのが六時頃だつたから救援隊が来てから四十分位たつたから三時間位……。

座長 そこからスキー場まではどの位ありますか。

園部 その場所はスキー場まで一キロ位でした、そのコースは五キロのコースでした。

園部 第二關門のところへお出でになつた時に二人のものが倒れてをるから助けてくれと言つた時にその時に第二關門の人は助けに出ましたか。

園部 出發したところを見ました。

園部 出發が十時頃で第三關門についたのは十二時半だつたから何時頃かネ。

座長 その点はこの程度にしておきまして今までのことで大体は判つてをるやうであります但し今のやうに道をまちがえたり崖へ轉がり落ちたり、要するに危険が発生した場合、救援の設備がどういふ風になつてをりましたか、それからまた危険に遭遇された人をどういふ風に救護されたか、この点についてお伺ひしたいと存じます、要するに今伺つたところでは第一、第二、第三關門があつて、その小屋に番人と申しますか、なんと申しますか、二人つゝ小屋の中におられたといふことで……握飯が多少設備してあつたといふ第一の關門には神薬があつたといふがこれ以上のものが何かあつたか、あつたとすれば御説明を願ひたい、一中の南さんにお伺ひしたい。

南座長 關門では僕は一度も食料品とか何かは一つも貰はなかつた。

南座長 關門には監視員の人はゐなかつたのですか。

南座長 第一關門では握飯をやらうかといはれたがその時は僕は腹が減つてゐなかつたのでいらぬといつて通つた。

座 長 藤本さん遭難の時はどうでしたか。

藤本 私が小屋に駆けて行きましたのは十時半頃です、その様子を見ると救護班らしいものは見なかつた、これぢや遭難が起るのは無理もないと思つた、勿論スキーも運動競技であり安全なものとしてやつてゐるかも知れませんが突發事故は相當準備さへすれば防げるものと思ひます、あの時なぜすぐ醫者を山へあけるか、また醫者が山へ上がれば醫者にかはる方法が講じられたと思ひます、私は數年前立野ヶ原スキー場へいつも救護班に加はつて行きました、それはこゝにをられる日澤中佐も御存じであります、救護班は小屋の中にじつとしてゐる時は救護班の任務はつくせない、要路を見て歩くのでなければ救護班の意味は徹底してゐない、差當りそこへ達した時感じたところはそれだけです、私としては遭難者を連れて戻れる方法が面白くない、凍死は假死の状態になつてゐる時が大部分です、假死の状態になつてゐるものをスキーの尻にのせて連れてくるといふのはひどい、眞死であるか假死であるかその判断を下す人が行つてゐない人間がたくさん上つてゐても何してゐたか判りません、小西さんのお父さんは小西さんをオンブして來られたが井關さんはズリ(橋)に乗せられて來た眞死と假死をどこで區別したか疑問であります、何とか助からなかつたか、あの場合には何とか助かる工夫がないか、注射をしてくれといふのが人情である、凍死の場合は假死の状態が多いから手當てして戻ることが多い、しかし兩者の場合には時間が立ちすぎてゐた、兎に角私の行つた時には醫者は見えなかつたやうです。

座 長 小西君の場合でも井關君の場合でも警察の方は變死として扱ひ現場から動かしてはいかぬといつたといふことをお聞きになりませんでしたか。

藤本 面白いふことは消防の方が言つてゐた事務所といふかどうか、人の集まつてをる部屋で警察の方から死体を動かしてはいかぬと、すでに死体といつてゐた、消防の方がそんな話をしてゐた、私としてはそれが死体であつても何んでも處置を講ずる場所につれてくるのが本當です。

座 長 警察が死体だから現場から動かしてはいかぬといつたといふのですか。

藤本 消防手が入つて來たのがそんなことを奥の人の溜りで話してゐたやうです。

座 長 あなたはどういふことでお出でになつたのですか。

藤本 私は小西を知つてゐるので行きました、私の行つた時は第一救護隊が出發してゐました、遭難のことは大學の研究室にゐたとき遭難の知らせをうけ取るものも取り敢ず走つた譯です。

座 長 それでは遭難の方にお伺ひしたいのですがこの遭難につきまして遭難の方に對してその場合どういふ通知がありましたらうか、またどういふ處置がありましたらうか並に遭難の方の感想並に實況をお伺ひしたいのであります。がまづ小西さんから……。

小西 私小西の父です、我々はその節は皆様に大きな御厄介をかけてすみません、あの時私の方へ北陸毎日新聞から電話がかゝつてどうか寫眞を貸してくれといふのです、寫眞といふことになるにあかぬものと思ひました、早速廣坂署へ飛込んで鶴來の遭難の様子を聞き合せて貰ひたいと申しました、そこで私どもと井關さんと木谷さんの三人だといふので急いで鶴來へ駆けつけました、スキー場の方に私はどうか現場までやつて頂きたいといふといかぬといふ、いくら頼んでもお前の格好ではなかつた、お前が行けばお前も助けに行かねばならぬからといひました、私は無暗に頼みました、是非やつてくれと頼んだがそれでもいかぬといふ、私は小さい時から山に育つて山には経験がある、年は五十を越してゐるが大丈夫だからと手を合せて山へ上りました、途中で八幡の宮のところから火を焚いてあつてゐるのだといひました、その村の人と連れ立つて約半分程あがつて死体にあひました、動かしてはいかぬといふのを、いかな死んでも可愛いわが兒の顔を一刻も早くみたいと思つて……私としては介抱してゐるならばそこから少し離れたところの低目のところで介抱してくれ、はい、いとつた、その上の吹きつけのところは二つの死体があつた……ハンカチをめぐると雪が二三寸あつた、丁度わが子の顔であつた、親子は争はれぬと思つてすぐ腹巻をさせ、手をつみオンブさせてくれと無理に頼んで私は負ひました、そして右の腕は左の懷へ、左の腕を右の懷へあたまめ火のあるところへおきて來てあたらせ「ホエ」をつんであつた小屋へゆきました、私はそこで薬と菰を足に巻きつけてやると腹の中から……といひました、途中で村の人に少し代つてもらひ醫者を用意してくれと頼んだ八幡村から外れたところで町内の人が着いた、小原のスキー場へ來たときに駆けつけられた藤本先生に注射してもらうやらいろく介抱しました、今井關さんをおいて言ふのではありませんが井關さんの息子さんにはスキ一二挺にしばられ、顔に薬をかぶせまことに慘酷な格好でありました、親として醫者の準備のなかつたことは誠に憤慨であ

ります、たゞスキーといふことに對しては縣の主催であり落度はないものと思つて信じてをつた譯であります。

井 座 長 井關さんにお伺ひしたいと思ひます。

井 關 私は井關與子男の父であります、あの遭難の當日は午後七時半頃に北國新聞社に出てをられる方が私の家へ寫眞を貸してくれといふて來られた、寫眞を貸してくれといふことはどういふ事であるか只親の慾目でけふの會に優勝したので寫眞を貸りに來たのではないかと嬉しいやうに思つてゐた、しかしどうも變に胸騒ぎがしてなりません、大体あの日の會は縣の主催でもあるといふので私どもも安心していくら時間が遅くなつても安心してゐるので遭難といふことは考へず優勝したものでないかと思つてゐた、いろ／＼お聞きすると事實はかういふ譯で遭難されたといふことを聞いた時は氣が狂はんばかりに實は驚きました、すぐ私一人が鶴來へ駆けつけました、スキーの事務所へ参りましたところが救護班の方も見えてをりました、努力してをられることは判り、皆様のお骨折りは嬉しいことと思ひましたがしかしわが子の遭難してをるのにと山へ上らうと思ひましたが皆さんが山には絶対に上るなといはれたので事務所待つてゐたが何時経つても降りて参る模様も見えませんでした、何の知らせもなく氣が氣でなかつた、どうかして山へ上ることは出来ないかといろ／＼してをると丁度十一時半頃警官の方が八幡の方へ行かうといふ聲が聞えたので八幡とは何處かとお聞きするとどうしても八幡へ降りてくるといふので警官と一緒に八幡まで行つた、實は私は八幡は現場間違と思つたがホンの山の麓でそれから現場は二時間もかゝらねばゆけぬといふので村の方に頼んで道案内して貰つて山へ上りました、丁度約一時間はかかりかゝつて行つたところが小西さんのお父さんがわが子の死体を火を焚いてあたゝめてをられるやうな譯でありました、その時消防手の方は多分井關もそこへ来るだらうといふ話でありました、それからまた山へ上りかけました、約十五分が廿分が上つたところで消防の方が連れて來られ漸く吾が子の死体を見たといふ譯です、やうやく小原まで運んだ譯です、それからいろ／＼手をつくし醫者の方にも注射して貰ひました、ところがそのお醫者さんは小西さんの方から頼まれたお醫者さんだつたといふことがあとにわかつたやうな次第です、かういふことは前世の約束と思つてゐます、皆様の御盡力を感謝する次第であります、大体の話は小西さんの話と同じいやうな話で私の思ひも小西さんのお父さんの思ひと同じであります。

小 座 長 お醫者といふのは小西さんの方から頼んで來て貰つた藤本さんだけですか。

小 西 私の三男が大學病院の外科にゐるものですから四男が遭難したといふことを聞いたので直ぐ藤本先生にお願ひしたや

うな譯です。

小 座 長 二人とも山の上から御息を連れて來られた時はスキーの事務所に協會の方の醫者はゐなかつたのですか。

小 西 ゐなかつたです。

小 座 長 寫眞をくれと電話のかゝつたのは何時ですか。

小 西 七時一寸前です。

藤 本 私はもう駄目だと信じてをりましたが死んでをらぬといふのが親の情であります。

井 關 注射して貰つたのは小西さんのところから來られた方で検死の時は鶴來の方のお醫者で……。

木 谷 木谷の兄です、今度の遭難に對し皆様方に多大の迷惑をかけました、私の遭難を聞きましたのは二中の厚見先生からで七時十五分頃と思つてをりました、金澤新報の方から學校の先生の方へ話がありそれからすぐ私の方へ知らせて頂いたものと思ひます、初めの間二人とも遭難してゐるやうに聞きその後何か變つたことはいかかと思ひましたが判らず鶴來の方へ聞きましたが鶴來の方では初めの間は判らぬといつてゐましたがその後清喜貞の方は判つたやうで弟の方は二時頃上山課長が會はれた、その時シャツ二枚とドロップスを喰べさせ元氣をつけて歸つて遭難をしたのを知らせに別れたといふことは鶴來の方へ行つて始めて聞いた譯です、鶴來へ行つたのは捜査隊の出たあとで私も連れ立つて行かうと思つたが行つても駄目だといふので救援隊が澤山行つてゐるから大丈夫だといふので……始めの間は弟が第二關門か何かに收容してあるやうに聞いてをりましたが話しを聞いて見るとそんなことはなかつたやうです、私はだん／＼時間が経つし遭難の個所が危険なところだと思ひました、今度まで行きつけなかつたといふことを八幡の人達に聞きました、そこへ小西さんたちが降りて來られたが弟は判らず更に人夫を頼んで九名ばかり行つてもらつて始めて見つけた、その跡に六名ばかり行きました、第一番目に行つたのが翌日の午前四時位に上つた譯です、夜中に捜査隊が行つたといふようですがそれが現場まで行つたかどうかといふことは私も疑問としてをります、檢視を見ますと多分午後の五時か六時頃かである、救援隊が駆けつけた時には遅いだらうと思ひます、山の上の方はどんな方法でやつてをられたか知れないので確答する譯には行きませんが何分にもさういふ点が遺憾でなかつたかといふことを私は考へます、私は現場には行かぬので述べることは出来ないが私の弟は現場まで行

つたが發見は困難だつたといふことです、山路に倒れ雪が一尺ばかり積つてゐたといふことです、下に私はをりましたが体育協会の醫者なんかは見なかつた、署長さんなどの話によれば救援隊が澤山行つてゐるから大丈夫といふことを聞きました、八幡の人の話によれば二人のもの以外に出てをらぬといふことを聞きました、私どもの九名のものが行つて始めて自分の弟を發見したのです、これから察するに現場へ行つてゐなかつたらしい。

座 長 遭難場所は始めから判つてゐたのですか。

木 谷 上山さんが會つてをられたから充分判つてをると思ひます。

座 長 下の方では判らぬとなつてゐたのではないですか、發見された場所は違つてゐたが……。

木 谷 それから動いたのです、二町ばかり元來の方へ戻つてゐたさうです。

座 長 地方課長の會はれた消息は判りませんか。

木 谷 その時は可成元氣だつたのでシャツ二枚をやつて來られたのです、可成り元氣だつたので小屋についてをれば生命に別條はながらうと考へてゐたがそれが反對の方へズツたのが運の別れ目でした。

座 長 動くなどいはれた時には相當にまだ歩くだけの元氣を持つてゐたのですか。

木 谷 歩くだけの氣力はなかつたらしく動かさうとされた時には腰がぐら／＼してゐた、その方はスキーがあまり上手でないものでこれではいかぬといふので知らせに來られたらしいです。

「晩食」——關戸氏退場

齋藤會長變つて座長席に着く、以下座長とあるは齋藤會長を云ふ。

座 長 あまり時間がかゝりますからさき程いろ／＼お話しを承りましたけれどもまだお聞きしたいことも御座います、後廻しに致しまして大体今回のスキー遭難事件につきましてスキーの専門家に公平な御意見を承りたいと思ひます、幸ひ御列席を願ひました日澤中佐は私もスキーにかけては相當の御経験の方と存じますので今回の遭難事件に對しどういふ考へをお持ちか承りたいと存じます。

日 澤

準備致してをりませんので順序を樹てましてお話を致す譯には一寸参りませんが今私はスキーを履きましてから廿三年になりました相當山その他の個所を歩いてをりますからその感想を一二申上げまして御参考になれば幸ひと考へてをります、またお話しを致します前に御遺族の方々が御列席になつてをられますが誠に御慰傷の至りで御座います、今度のスキー遭難事件につきまして私の一番頭に響きましたことは山嶽のスキーとグラウンドスキー……大乗寺とかあるひは卯辰山スキー場とかいはゆるスキー場といはれてゐるところで行ふスキーとの區別を判然つけずに主催者の方で致したことは遭難の重大原因でないかと考へてをります、御説明を申上げますと非常に長くなりますが山嶽スキーはグラウンドと根本的に違ふところはスキーをやる方はみなさん御承知の如く一方は足を充分開きまして常に速力を制動致しまして全速力を出さないやうにするとところが山スキーの特質である、グラウンドの方は最大速力を出して其速力によつて種々難多の型をやるやうに仕組まれてゐる、それで御座いますから平生いはゆるグラウンドで練習致しましてその技倆で山を歩くといふ事は非常に無理がかゝるのであります、従つて体力を非常に消耗致します、制動をかけずに速度を緩めずに山を跋涉するといふことは非常に精神上並に肉体上に非常に無理を來します、それで御座いますからどうしてもグラウンドで行ひます競走用のスキーなんかを履きまして山に行くといふ事で御座いますと餘程雪の質もよし天候その他の關係が非常に良好な場合でなければ無算であります、私は當日丁度卯辰山の方に行つてをりましたと雖も角スキーを脱がれたといふことを拜見しまして或はレース用のスキーではつきりしたことは申し上げられませんが兎に角スキーを脱がれたといふことを拜見しまして或はレース用のスキーをばいて山に上られたのではないかと頭に浮びました、これらが主催者のいはゆる注意の周密でなかつた点ではないかとかういふ風に考へてをります、山に登りまして最も困りますのは無論雪崩が一番で御座います、しかしあのコースで雪崩の來るところは、風吹峠ぐるが雪崩があります、あの雪崩の來さうな斜面は非常にデコボコでありますから、餘程雪の質が下の雪と上の雪の性質が違はなければ雪崩はない、根雪ではあの個所は雪崩はない、とにかく雪崩の危険はありません、しかしあの風吹峠はアワが非常に來るところで御座います、後高、風吹峠、あの附近一帯がアワの多いところで御座います、アワと申しますと雪崩の移動で御座います、風が吹くとある地方に積んでをるのがザアツと雪崩れて一丈も二丈もつみ、それがまた風が吹きあらしてどつかに持つて行かれる、その中に入ると山に経験のないものが精神的に大打撃をうける、これはスキーに経験のあるもので御座いましたならばかういふ場合に處する方法はありますが長くなりますからこゝでは申し上

けません、その次に危険なのは風が強くと下に埋つてゐる雪をまきあける、これは非常に呼吸するに困難であります、バツと下から下から捲き上つて来るんです、その次に横から吹く風ですがこれは吹雪と申しましても千尺内外の山ですから横から吹くだけでは大丈夫で御座います、實際に行かれた方にお聞きすれば判りますがアツまでに行かぬにしても下に積んでゐる雪が下から下から上つて非常に猛烈にお感じになつたものでないかと考へます、かういふ吹雪に對しては全然スキーといふものは強行するのは無理であります、吹雪であつたならば適當な避難場を設けてやりまして吹雪の止むまで待つ、山の吹雪は一日中さう吹雪いてゐるものではありません、時には止み時には吹雪といふ状態であります、よく落付いて吹雪止んだ時に下山するといふ風にすれば遭難はないのであります、當時の吹雪は一帯どの程度の吹雪であつたかは實際にやられた方は御承知であらうと思ひます、次にスキーのコースでありますがあのコースは實際無理で御座います、どこから登りましても非常な急斜面。風吹き、八幡から登りましたところでもつちも急斜面です、あの急斜面を上るまでに大体体力が消耗するのが當り前で御座います、一昨年私が鶴來のスキー協會から頼まれてあの鶴來のスキー場を活かすためどうしても後高コースは鶴來スキー場として容るゝ必要があると私が力説したところそれでは見てくれと申された、それで私が直接ズツと登りましたところあのコース中に一ヶ所所危険なところがあります、危険といふても大した危険ではありませんが一寸した尾根があります、その尾根は下りをどつちにとりましても下りは非常な危険なものであります、このまゝではスキーのコースにはならない何かこゝに施設をしなければスキーのコースにはならないと考へました、風吹の方はあの風吹のもう一つ北側の文字山を廻りまして風吹を斜めに突ききると困難でなくなる、そこを登つて八幡の方に下りる、下りる時には大した努力はいらぬのでありますから登りには体力を消耗せぬやうにせねばならぬ、あのスキーコースを矯正しなければ後高一帯はスキーコースにはならないと鶴來のスキー協會の方に申したのであります、が經費關係からその後實現が出来なかつたのであります、さう申しますと何か私が非常に先見の明があつたやうにお取りになる方があるかも知れないがさういふ意味ぢやなく實際に歩いて見れば本當にスキーのコースにはならないのであります、さういふスキーコースが甚だ不完全なところでおやりになつたといふことはまたこの遭難の一つの原因になりやしないかと考へてをります、それからあのコースをおとりになつてもよろしいが山上に誰か責任者ををりましてそのコースの天候あるひはその他の状況により止める或ひは續行するといふことを判断する一人なり二人なりの責任者をつてこの競走を支配されるといふやうな處置もおとりになつたかどうか判りませ

んが、どうしてもこれは必要である、一番危険な個所とか最もあやまりやすい個所とかいふやうなところに山岳スキーに經驗をもつた人でその會を主催するやうな方がそこにをらなければいけません、さういふ方がみな下におられてスキーに經驗のない人夫のやうなものばかりを山に上げてをられると、ともすると今回のやうな不祥事を惹起するやうなことがないとも限らぬのであります、元來山を歩くにリュックサックを持たない、リュックサックを全部背負ひまして何か天候が激變するとかさういふ場合に適時着物を着るとか或ひは空腹をうつたへた時には持つた食料を出してたべるとか或ひは自分が遭難しなくても他の人が遭難した時にそれを助けるとかいふ場合にどうしてもリュックサックを負はせてやらなければならぬと思ひます、これらはどうも新聞紙上で拜見して見るとリュックサックを負ふてをらぬやうであつて注意が充分行き届かなかつたと考へてをります、山を歩きますには必ず團體で歩かなければいかぬ、これはわれ／＼がよく經驗したことであつて一人々々山を歩くといふことはわれ／＼でも兎に角非常にこわいやうに感じます、山を歩く時には相お互に助けあつて進まなければならぬ一人々々といふことはどうも適當でないと思ひます、あゝいふ場合においては申込みに團體三人なら三人、四人なら四人といふ風に團體申込みを出させ、さうして團體の競走をさせる、これがコースを山にとりました場合の當然のやり方と考へます、山はどうしても相互に助けあつて行かなければならぬ、普通と違つてまた雪の山と雪のない山は全く趣きを異にしてをりまして心臓の悪い方なんかあの尾根に上つて谷を見ると眩暈をなさる、ところが夏山に登りまして谷を見ても眩暈をしません、何故と申すと冬はすつかり雪が積んですべつてのものが隠れるためすこぶる急に見える、一寸這らしてもなんら阻止するところがないやうに感ずるから非常に急に考へます、夏山はこれから見ると急に感じない、一寸恐怖心が起らないのであります、冬の山に上つて斜面を見ると非常に急であり且つ恐いといふ感じが起るのは自然であります、さういふやうな点から見まして一人々々行くといふことは全く無謀であつてお互に助け合つて行くといふところに面白味があります、この点一人々々出したといふことにつきまして主催者側の注意が周密でなかつたのではないかといふ風に考へます、その他關門で御座いますけれどもこれは地圖を見ますと何分意味をなさないとところに關門があるやうに思ひます、第一八幡から上ると堂の方にゆく道と風吹の方に行くには非常に間違ひ易い、標識かなんかで間違ひないやうにはしてあります、たらうが關門はスキーコースの間違ひ易いところとか、あるひは危険なところとか、あるひは雪崩の來さうなところとか、さういふやうなところに置くのが至當でありまして、そしてなほ先ほど申し上げましたやうな會を主催するやうな方が一番

高いところに居つて全般を見てをるといふやうにするのが最も良いのであります、あの關門なんか危険なところにも置かず間違ひ易いところにおかずスキーコース全般の見えるやうなところにもなかつたやうであります。これが一つの遭難原因になつてゐるのではないかと考へます、もう一つは雪の質で降つたばかりの雪は非常に雪の中に空気が澤山入つてをりましてあたり前のスキーを履きましては降つたばかりであると一尺乃至二尺五寸はゴボる、これが二日、三日経つとすつと固まりましてスキーは五六寸のところまでまことに氣持のよい滑走が出来るのであります、降つたばかりの雪は滑走が出来ないのであります、それで非常に苦しむのであります、いはゆる新雪をラッセルするといふのは誠に苦しい、團体行軍では殆んど十分おきに先頭をかへねば速力が出ません、十分乃至十五分位で先頭をかへる、いはゆる雪を排雪するものを代へる、これが雪が深い程先頭をかへ段々最後に廻す、さうしてゆくのが普通で御座います、だから殆んど當日後からゆかれた方は先頭のスキーコースが判らぬので新雪をラッセルしてゆく状態ではなかつたかと考へます、さうなれば非常に疲労を來すのでありますから遭難の一つの原因と考へます、山の頂上における吹雪と普通の町における吹雪との強さは大分違ひます、同じ風で御座いますと非常に強く感じます、下をたつてこの位の風だから山の上もいゝだらうと判断することは非常に危険であります、私は三倍位に感じてをります、二千尺位の程度で下で五米の風なれば山では十五米乃至二十米に考へます、當日卯辰山でも大分強い風だつたから、どれ位あつたか判りませんが、あの後高あたりの尾根は大分強い風でなかつたかと考へます、従て下に居りましたもこの風速あるひは雪の降り方をよく考へましてこれは山は大分吹いてゐるといふのでその大會を中止するといふ豫定に出られるといふことも必要でなかつたかと考へます、只今感じてをります事は以上申上げたやうなことであります。今回の遭難事件につき新聞記事で感じたことは以上の如くであります、なほ最後に一言申上げたいことは今後のスキー上に、この遭難事件のためスキーがもしも危険だといふやうに皆様が考へになりましたならばそれは体育上非常に重大なことでありますから注意さえ周密ならば、注意さへ加へればスキーは危険ではない、注意とはむしろ臆病……グラウンドはさうでないが山岳には臆病であるといふことがよい、すべてを石橋を叩いて渡る主義にゆけばこの遭難とか危険とかいふことは伴はないのであります、それで山岳におきましてはむしろ臆病であるといふ精神で行ひますことは當局者といひ

ましては特に若い方々が可成り行かれるやうなあるひは醫王山とか鶴來の後高とか山中奥のスキー場といふやうなあらゆるスキーコースになるやうなところを實地に臨んでスキーコースに對する施設完備が非常に大事なことではないかと考へます。たとへば危険な個所には避難小屋を造るとかあるひはコースの危険なところを變更するとか縣當局とされましても充分設備を周密に致しましてスキーをさかんに奨励して頂きまして体育上にこれを利用するやうにお願ひ致したい、甚だ詰らんことを申上げましたが直覺的に浮びました感想を申上げておきたいと思ひます。

座 長

只今の日澤さんのお話は非常に参考になりました次に体育方面について相當御研究なされてをります島博士に今回のこの事件に對する体育上からどういふ風にお考へになつてゐるかその感想をお伺ひしたいと思ひます。

島

私はスキーに關しましてはあまり知識は持ちませすまた体験もないのであります。がけふは皆様の話を伺ひして今後に資したいと思つて出て來た譯であります。が何か話をせよといふので思ひついた一つ二つを申上げます、第一はあの日は特別に寒くて風速廿米もあるに對しおやりになつた皆様の体力もまた不足であつたものでなからうかと思はれる、況んや体力の足りない方は遭難される場合もあつたぢやないかと思はれるのであります、その三人が犠牲となられ私らによい経験を教へ下さつたのであります。がけふは三人が何故に特別に私たちに對し尊き犠牲になられたかについてはあまり聞きませんでした、折があつたらその感想を聞きたいと思ひます、爾來この体育方面については縣方面の知識ある人の中にも醫學的に關することについては從來常に等閑に附してあるものであります、縣に置きましては體育協會に醫師を採用してをらすまた常に御相談になる機會も少いやうに思つてをります、今後はやはり醫學的知識もかねた体育の経験のある人を石川縣の體育協會に常聘せられて事をお圖りになつたらかういふ不祥事は起らなかつたかと考へます、今御遺族のお話しに醫師が遭難された時間から非常に遅れて到着されたといふことは私は凍死なるものは急に死亡するものでないといふところから考へて誠に遺憾に考へてをります、これらにおきましては體育協會としましたならばもう少し平生から醫師をおもちひになつて相共同して進んで行つたならば石川縣のために結構だと思つてをります。

座 長

一寸島さんにお伺ひしたいのであります凍死の際に假死の状態に陥つてゐるとわれ／＼は聞きます、假死の状態に陥つてから本當の死亡といふ現象を起すのはどれほどですか、最も体の事情にもよりますが通常の場合には約何時間かゝりますか。

島座長

それは一定致しません、温度もあるし体力の関係もありまして一定しません。

島座長

通常の場合？。通常の場合といひましてもその人その人の場合でいろ／＼違ひます、例へば非常に身体の瘦せた少し病氣もあるといふやうな人は早く死んでしまひます、身体が肥えて丈夫な人でありますならば割合にこたえます。

島座長

五六時間はもちますか。

島座長

まだ／＼こたえます……假死の状態を簡単に申しますならば脳の働きはないやうになつてをるけれども循環器は生きてゐる、呼吸は場合によつてはなくなることもありませんが、僅かに呼吸してをる。

島座長

脳の働きがなくなるのですか。

島座長

血行はあるが脳の働らきがないため起しても眼がさめないといふのです。

北村

それから今度のコースはどういふコースかそのことにつままして藤花女學校の北村先生が現在遭難のあつたコースについて御存じのやうですか……。

北村 スキーは下手ですけれども約二十年ばかりやつてをります、今年と昨年の二ヶ年は鶴來の方へは参りませんから最近の状態は詳しく知つてをりませんけれども幸ひにして私はあの村に生れたものであの邊の状況はいくらか外の人より詳しく存じてをります、今度のコースの大部分は最も危険なコースだつたといふよりあのコースの地勢を見ますれば手取川の支流と犀川の支流である内川の分水界を縦断してゐる譯であります、鶴來の方面と内川の方面とあのコースは兩方とも非常に困難であります、私は堂後谷よりもう少し手前の小原のものであります、それがそこへ冬になるとスキーに参りますと私の弟がよく住吉から風吹峠には十年ばかり前に堂の村の人が堂の村から風吹峠を越えて吹雪のために遭難してゐる名前の通りに危険であります、今一つは八幡から後谷へ下りる時も危険であります、その土地の人も鶴來へ出る時には非常に注意して鶴來から戻る時には峠の前にはしばらくとまつて吹雪の状態を見て駆け足でもつて行くといふ状態です、そこへとまつて状況を見るのです、鶴來の人は割合に知らず堂、後谷の人が危険であるといふことをよく知つてをります、鶴來の人は堂、後谷に行くことがあまりないからです、私は夏はよく行つてをりますが冬は風吹峠へ出

たことはありません、夏行つたりまた下から見たりする状態から見てもまた後谷、堂の人が非常に注意してゐることから見るも遭難といふことはありさうなことと思ひます、あそこはスキーのコースとするならば完全な設備をしまければならぬところと考へます、もつとよいところがあればあそこは止めた方がよいと考へます、今一つ今回の第一、第二、第三關門の監視員はつまり雪といふものの權威者でなかつた、鶴來邊の人が上つてゐた、体育協会の役員でもなんでもないそれらの方が山に登つてゐたことが今回の遭難にいくらか原因があつたやうです、こゝで商業の生徒に聞きますと小西、井關二人の遭難された場合、遭難されてゐるのを見て小屋へ行つてまた戻つて来て薪をもつて火を焚いてあたらしたら、何か物を言ふてゐたがしばらくするとまた眠つたといふことです、これらは全く雪に遭難した場合どうして助けるかといふ心得のなかつたためではなからうかこれらは適當な人を監視員に出してをけばそんなことはなかつたと思ひます、今回遭難された方々の御遺族の方がおられますが誠に御愁傷なことでありまして哀悼の言葉を申し上げます。

西座長

小西、井關君は一たんヒユツテに擔ぎこんだですか。

西座長

小屋から大分離れてゐた、僕と木谷君が行かうとしたがゴボつて歩けなかつた、大人の人は七人をつた、二人は介抱してやると一べん顔色がよくなり眼をあけたがまた眼をふさんだ。

園座長

一中の園部君の話のうちに十八キロと五十キロのコースを間違へたといふことですが、何か五十キロと十八キロとの目印でもあつたのですか。

園座長

五十キロといつたのは十八キロだつたさうです。

小座長

小西さんの令息は大体どういふ体格ですか。

小座長

体格は一月に少し風をひいて咳をしてをりましたのでお前もスキーをやるならばウンと強くしておかねばと井村醫師に見せたところ何も悪くはないといふことでした、身長は五尺六寸位、目方は十六貫いくらかありました、兄弟の中で一番大きかつた。

井座長

井關さんの方は？。

井座長

背の高さは五尺五寸位と思ひますが割合に大きな方で目方は知りませんが体格は非常によかつた。

座木座

本谷さんの方はどうです。

長 五尺四寸ばかりあつたやうですが日方は知りません平素は年の割合に丈夫だと考へてをります。
谷 段々時間もおそいことであり學生諸君もをられるからこれで閉會いたします、さき程から學生諸君の實際今度の競
技に参加された経験を承つて私どもは非常に参考になつたと存じます、日澤中佐、島博士らに今回のスキー遭難事件に對す
る感想を承つて私どもはこの問題に對し批判を下さんとする立場から非常に得るところがありました、のみならず若いスキー
ヤーに取りまして非常に將來の参考になつたところが多々あつたやうに考へるのであります、並に藤本先生からは今回の遭
難事件に際し直接醫師として當られた経験談を承りこれも今回の問題を批判する立場から見ても非常に私どもの裨益する点が
あつたのであります、たゞ私どもの甚だ御同情申上げますのは遺族の方々の話を承つて全く骨肉の情として親子の情として
もう駄目だと醫師の方から宣告されたに拘はらずなほ死んだやうな氣がせず殊に小西さんの如きはわざ／＼山までお上りに
なつて且もしそれが他人であつては出来ないと考へておられませうが親子の情から背負つて下られた、實際その場に体験され
たことを聞きまして私ども全く涙ぐましい氣持ちで聞いてをつたのであります、今回私どものこの催しにより幾分でも遺族
の方の氣持ちをやはらせることがありましたならばこれ主催者として幸ひと存じます、私どもの今回のこの企ては公平にこ
の問題を批判して見たい、先ほど私が開會の時に申上げた通りであります、私どもを利用してどうしやうかうしやうといふ点
は全然ありません、あるひは學生諸君は御遠慮されて自分の言つたことについて證據にとられるといふことをお思ひになる
かも知れませんが絶体にそんなことはない、只この際批判するばかりでない、將來かやうな不祥事が再び起らないやうに今
回私どもの催しの結果が資するところがあればこれ以上の幸ひがないのであります、決してこの企てに對し誤解は絶対にし
て頂きたくないのであります、單にそれだけの意味であつたといふことを十分御諒解願ひたいのであります、甚だ寒い折柄
に拘はらず多數御出席下さいまして殊に實際に参加されました各位の御出席を御喜びして有益な話をききましたことは光榮と
するとともに厚く御禮申上げます、これをもつて座談會を閉會致したいと思ひます。(終)

かくて吾人は座談會の結果稍事件の核心を掴み得たと信じたのであるが更に大會十八軒スキーレースに出場した斯界の猛者たる
青年部選手若林君を四日午前辯護士室に招致し委細聴取するところがあつた。即ち左の如くであるが會員諸君との問答は座

談會の形式に依る。

重 山 スキー大會の設備模様及遭難の模様を承りたい。

若 林 午前十時頃に鶴來へ到着し間もなく青年組の第一番として出發したもので出發當時より降雪がありました。

重 山 出發点より平地迄の距離は何程ありますか。

若 林 約二キロ半であります。

横 井 平地を越へて第一關門迄の距離は何程でありますか。

若 林 第一關門迄は一番険しい箇所であり距離は其間約一時間を要しますから約五キロであります。

重 山 そう致しますと約二十五丁程上りであると云ふが其通りですか。

若 林 そうであります。

重 山 第一關門の様子は如何でありますか。

若 林 第一關門には監視人が二、三人居りました、遭難者の本谷には第一關門を越えて半キロ程の地点で會ひました故大
丈夫かと尋ねました處本谷は大丈夫だと申して居りました。

重 山 第一關門と第二關門の距離は何程でありますか。

若 林 ヒュッテは炭焼小屋を利用したものであります、コースのホエの先を鉈様なもので槍先の様に切りありて危険で
滑るに非常に困難でありました、小屋を越えて間もなく吹雪で進むことも出来ず暫時立止まつて居りましたが十分程して風
が止まりましたが又吹雪になりました、一山越して行くと助けを求むる聲がしたので聲の方に進むと井關、小西二人が遭難し
て特に小西は食物を要求して居りました故小西に對し注意して食物を届けさす故夫れ迄此處に待つて居る様に申傳へ別れて
約二百米行くと鶴來の役員らしい人が一人降りて來たので食物を呉れと云つたが同人も持たないので第三關門の手前約一キ
ロの地点にあるヒュッテへ着いた時役員らしい人が二、三人リュックサックを背負つて來た故井關、小西二人の遭難を告げ
食物を至急持參して救ってくれと依頼しました、同人等は多少食物を持つて居るとの事でありました。

重山 若林さんが第三關門よりスキー場にお歸りになつた時刻は何時頃でありましたか。

若林 午後三時半乃至四時頃でありました、第三關門には食物は何にもありませんでした、井關、小西に會ふたのは午後三時頃でありました、木谷に會ひました時刻は午後一時頃でありました、第三關門には監視人が一人居りました、右監視人に遭難者に対し食物を與へる様に依頼しましたが何物もありませんでした。

重山 救護設備はどの程度のものでしたか。

若林 救護隊の設備はありません（あの場合に選手の出發後救護隊が遭難者、落伍者を救護する爲め相當人員で見廻る必要があります）スキー場に歸着後途中遭難者のある事を係員に告げ救護を求めた處四五人救護に出發しました時刻は午後四時頃でありました、午後四時過に一中校の生徒が一人歸りましたので遭難者の仕末を尋ねた處小屋へ收容された旨を申し居りました、十八キロレースは最後でありました、醫者は見當りませんでした。

塚本 今回のコースはレースのコースとしては難コースですか。

若林 レースのコースとしては難コースですが山岳コースとしては大したことはありません、今度のコースはレースコースとしては始めて使用したコースであります。

乾 小西、井關の兩名は怎うすれば助ける事が出来たでせうか。

若林 少くも人が三人居て小屋迄連れて行き介抱することが出来れば助ける事が出来ました、最初會つた時小西は食物を求めてゐたが井關は相當元氣でありました。

重山 警察の捜査方法は怎う云ふ模様でした。

若林 警察官は見當りませんでした、木谷に対しては救護隊が出ませんでした、當時自分は地方課長には會ひません、木谷の遭難は翌日になつて承知しました、當日のコースの標示は第一關門迄は見えました、レースの落伍者に対する救護隊は當日絶對に出て居りません、レースのタイムは取つて居りません、尙今回遭難したコースならば普通一日がけのコースであります尤も上手な人ならば半日位で通過出来ます。以上

右各調査研究の結果を綜合歸納し得たるところを要約すれば

一、コースの選定が無理であつたこと

一、それに対し設備が不充分であり萬一の際に對する救急設備が全然なく遭難の通知に接した後の活動に遺憾の点が多々あつたこと

一、殊に既に死亡してゐるか未だ假死の程度か判らぬのに凍死したものととして出来得る限りの手當をせず醫師すら迎へなかつたこと等の事實に就ては歴然たるものがあつた。

之等の心證を得た吾人は二月四日午後一時より辯護士室に於て再び全員協議會を開き今後本會の執るべき處置に付種々協議を重ねた結果休協會長山口知事に對し民事上の賠償を爲すべきことを勧告すること並に行政上の責任を問ふことの二点を留保し全會一致を以て當該責任者たる休協主事西園富吉を業務上過失致死罪として金澤地方裁判所検事局に告發すべきことを決議し同時に本會が右處置に出つるに至りし理由を社會に聲名することを決定した。

尙右聲明書及告發狀の起草を齋藤、重山正副會長、塚本、村澤、村井の五君に委嘱したので以上五起草委員の手で起草した上二月六日午前十一時より辯護士室に於て第三回全員協議會を召集し先づ聲明書草案を滿場一致承認の上更に告發狀には内容の検討を行ひ之亦異議なく確定したので全員署名を終り同日午後五時愈々金澤地方裁判所検事局に提出し翌七日齋藤、重山、横井、廣瀬、大槻の五君は検事局に出頭佐藤檢事正、猪原檢事に會見の上前記告發狀の内容を詳細説明するところがあつた。聲明書及告發狀の内容は左の通りである。

聲 明 書

抑モ体育運動競技ヲ爲スハ普ク國民ヲシテ斷ニス体育運動ヲ合理的ニ實施セシメ以テ國民ノ精神的並ニ身體的訓練ヲ完ウシ其ノ品性並ニ地位ヲ向上セシムルヲ目的トスルモノニシテ其指揮監督ヲ爲ス者ニ於テ運動ヲ行フ者ノ年齢、體質、体力、氣力、環境、土地ノ事情、季節ヲ考慮シ運動用具救急設備等ニ注意シ運動ニ因ル障害ノ豫防法ヲ怠ラサルコトノ要アルヤ言ヲ俟タス

時偶々昭和八年一月二十九日舉行セラレタル大日本スキー選手權大會豫選第四回近縣スキー競技大會ニ於テ突如發生シタル選手遭難事件ハ天下ノ耳目ヲ聳動セシメタル問題ニシテ而モ之レカ原因タルヤ主催者當局カ當然要スヘキ注意義務ヲ怠リタルニ在ルニ不拘責任者當局ハ之レニ對シ自己ノ非違ヲ悟ラス却テ其ノ責ヲ不可抗力ナリト放言シテ回避セムトシ厚顔ニモ恬トシテ耻サルノ舉ニ出テタルモノナリ

然ルニ近來如斯不祥事カ數次惹起スルモノニ對シ教育家、宗教家ハ自己ノ立場ノ不安ヲ虞レ政治家、實業家ハ凡ユル情實ニ捉ハレテ手ヲ染メス唯袖手傍觀シテ之ヲ顧ミサルノ狀態ナリ

茲ニ於テ吾人ハ人權擁護ノ大義ニ基キ其ノ是非曲直ヲ實シ公正ナル判斷ヲ與ヘ之レヲ中外ニ宣言シ責任アル處ハ之ニ歸セシメ權利アル處ハ其ノ途ヲ示サムカ爲メ該事件ニ關シ吾人ハ逸早く研究部調査部ヲ設ケ調査部ハ人的、物的證據ニ基キ事實ノ調査ヲ爲シ研究部ハ其ノ結果ヲ法律的人道的方面ニ之ヲ研究シタル結果本問題ハ明カニ當局ノ重大ナル過失ニ因リ遭難者三名ヲ死ニ致ラシメタルモノナルコトヲ確認スルニ至リタリ

左レハ吾人ハ之ヲ此儘座視スルニ忍ヒス權力ノ城壁ニ據リ遁辭ヲ以テ法律上ノ責任ヲ回避セムトスルカ如キ當局ヲ糾彈スルハ蓋シ吾人カ取ルヘキ當然ノ義務ナリト信シ体育運動界將來啓發ノ一途トシテ其ノ直接責任者ヲ告發シ司法權ノ發動ヲ促スニ至リシモノナリ

敢テ聲明ス

昭和八年二月六日

金澤辯護士全員協議會

告 發 狀

同 告

發 人

山	北	塚	廣	太	吉	村	乾	得	前	豐	堀	藤	村	志	關	金	橫	重	齋
本	山	本	瀬	田	井	澤	健	田	川	島	崎	井	保	戸	山	井	山	藤	山
		助	時	義							小	谷	又	伊					
											勝								
文	八	嘉	政	多	吉	武	清	寅	正	三									
	次	一	二																
吾	郎	郎	一	郎	治	郎	朗	耘	榮	夫	介	郎	造	義	松	郎	美	好	生

然ルニ本件ノ場合ニ於テハ山麓ニ於テ既ニ競技コースタル山頂ノ猛烈ナル風雪ヲ觀測セラレタルニ不拘猶競技ヲ續行セシメテ競技中止等ノ應急措置ニ出テサリシコト

2、前記ノ如ク本件競争コースハ山岳ヲ主体トセルモノニシテ且ツ中途激烈ナル風雪ノ襲來セルヲ察知セラレタルニ不拘落伍者若クハ遭難者ノ捜査收容ノ爲メ競技者ノ背後ニ相當スキー經驗者ヲ以テ組織セル救護隊ヲ派遣セサリシコト

3、山頂ニ設置セラレタル三ヶ所ノ「ヒユツテ」ニ僅々二名宛ノ監察員ヲ配置シタルニ止マリ通信連絡ニ甚シキ缺陷ノアリシコト

4、右各ヒユツテニ充分ナル食料及救急設備ノ配置不充分ナリシコト等ヲ數フヘク事後ニ於テハ

一、遭難ノ報知ヲ接受セルニ不拘全競技ヲ進行シ徒ラニ形式的ノ閉會式ヲ舉行スル等危難ノ發生ヲ輕視シ萬全ノ救助方法ヲ講セサリシコト

二、即チ遭難ノ報ニ接スルヤ直チニ充分ナル救護用具救護知識ヲ有スル救護隊ヲ派遣セサリシコト

三、大會組織構成上醫師一名ノ配置セラレアルヲ見ルモ事實上一名ノ醫師看護婦ノ配置セラレタルコトナク小西、井關ノ兩名ノ如キ小西ノ父カ同伴シタル藤本醫師ノ手當ヲ受ケタルニ止マルカ如キ殆ント救護設備ノ皆無ナリシコト

四、隨ツテ凍死現象ニ對スル智識ヲ缺キタル爲メ小西、井關ノ兩名ヲ假死ノ狀態ニテ長時間放置シ醫學的措置ヲ爲サ、リシコト

右列舉シタル各項ニ存スト斷スルヲ得ヘシ

叙上被疑者ハ身荷クモ縣下多數學童ノ体育指導ノ任ニ在リ縣民ヨリ安シテ其ノ子弟ヲ托サレナカラ危險發生ヲ未然ニ防止スヘカリシニ不拘之レヲ怠リ剩ヘ遭難者發生後數時間ヲ經タル午後七時ニ至ルモ父兄ニ通知セス新聞社員ニ依リ之ヲ知リ斯ク急遽現場ニ駆付ケタルカ如キ又遭難者ニ對シ未タ之カ生死決定前既ニ屍体ノ取扱ヲ爲シ繩ヲ以テ縛シ搬出セシメタル如キ被疑者ノ冷酷ナル處置ヲ見ルニ於テハ本件發生ノ如キ蓋シ當然ナリト謂フヘク其ノ情狀ノ憎ムヘキヤ社會正義ト人權擁護ノ爲メ寸毫苛責ノ餘地ナク右被疑者ノ所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルモノト認メ斷乎タル御處分ヲ仰キ度茲ニ告發ニ及フ次第ナリ

證據 及 參 考

一、必要ニ應シ追而提出ス

昭和八年二月六日

金澤地方裁判所

告發者 連 署

檢事正 佐藤伊惣治殿

越えて二月九日縣体育協會では協會の名を以て左の如き願末書を發表するに至つたがその内容の批判は姑らく之を避けることとする。問題の鍵は今や司直の手に握られてゐるのだ。事件發生以來騒々たる非難の中心、怨嗟の的となつてゐた体育協會の辯明が果して立證さるゝか否か？世人は齊しくその成行や如何にと注視してゐる。吾人亦刮目して結果を俟つてゐる次第である。

スキー競技會ニ於ケル遭難願末

昭和八年一月二十九日石川縣体育協會及石川縣鶴來町共同主催ノ下ニ全日本スキー選手權大會豫選及第四回近縣スキー競技大會ヲ鶴來スキー場ニテ開催シタルニ十八軒及五十軒ノコース中後高山ヨリ止宿平ヲ通スル尾根ニ正午頃ヨリ猛烈ナル吹雪襲來シ遭難者ヲ出シタルニ付直ニ救助ノ爲メアラユル方法ヲ講シタルモ天候益々險惡ヲ極メ救助意ノ如ク効ヲ奏セス遂ニ三名ノ選手ヲ喪ヒタルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス以下本大會ノ準備、競技狀況及遭難願末ヲ述フ

一、大會開催計畫

全日本スキー聯盟會長ヨリ本協會ニ對シ昨年十二月十九日付ヲ以テ本年二月十日、十一日、十二日ノ三日間札幌市外札幌神社外苑ニ於テ舉行スル第十一回全日本スキー選手權大會ニ出場スヘキ選手決定豫選會ノ開催方ヲ依頼シ來レリ、依ツテ同時ニ第四回近縣スキー競技大會ヲ併セ行フコト、シ會場トシテ例年開催シ且本協會ニ於テ再三調査セル鶴來スキー場ヲ選定一月十日付ヲ以テ縣下各スキー團體、學校、郡市青年團、教育研究會、近縣体育協會等ニ對シ右開催方ヲ通知ヲ發達シタリ。斯クテ一月十四日大會役員會長以下五十餘名(内走路員及監察員八名)ヲ決定準備ニ着手シ距離競走コース及ヒシヤンツエ(飛躍臺)ノ準備ニ關シテハ一月十七日共同主催者タル鶴來町ノ役員ニ其ノ研究方ヲ依頼シタリ

一、距離競走コースニ關スル準備

距離競走コースハ聯盟規約ニ據リ且各地ノコースノ實狀ヲ參考トシ鶴來附近ノ地形ニ鑑ミ調査シ小原スロープヨリ月惜後高山、文字山ヲ經テ出發点ニ戻ルコースヲ十八キロコーストシテ選定シタリ。

三、競技開始

午前九時二十分選手役員集合シ開會式ヲ舉行其ノ際西園役員長ハ特ニ距離競走上ノ注意トシテ左ノ事項ヲ述ヘタリ

(1) 食料品ニ付テハ十八軒スキーリースハ食料ノ準備ヲ主催者ニ於テ豫メ準備スヘキモノニシテ出發前競走中空腹ヲ感セサル様食事ヲ攝リ尙各自食料品ヲ少量携帯シ出發スルヲ可トスルコト若シ萬一途中ニテ空腹ヲ感シタル折ハ關門ニ於テ又ハ監察員、走路員ニ申シ出テ食料ノ補給ヲ乞フコト、五十軒コース選手ハ十八軒ヲ終リタル所ニテ食料品ヲ給スルヲ以テ成ル可ク其處ニテ食料ヲ攝ルコト

(2) 服裝ニ付テ コース中後高山附近ハ氣温低キ爲メ餘リ薄着ヲセシメテ出發スルコト

(3) コースニ付テ コースハ二十八日午後一時發表シタルモ更ニ重要部分ヲ説明シ其ノ他競走上ノ注意ヲナス

四、競技概況

五十軒(三名)午前十時ヨリ一分毎ニ出發、朝來ノ降雪止ミ一時晴レ天候恢復ノ如シ十八軒壯年組申込三名全部棄權、少年組(三十名)午前十時七分ヨリ各々一分オキニ出發、成年組(六名)午前十時三十七分ヨリ各々一分オキニ出發。(規約第八條年齡ニヨリ區分セラレタル競技者カ同一走路ヲ使用スル場合ノ出發ハ壯年少年成年ノ順序トス)複合(二名)午前十時四十一分ヨリ一分オキニ出發。三十二軒リレー(二チーム)午後二時同時ニ出發。男子廻轉競技午前十一時半開始。女子滑降競技午後零時十分開始。女子廻轉競技午後二時開始。飛躍競技午後一時三十分開始。四軒リレー午後三時開始。閉會午後六時。右ノ内距離競走ノ結果ヲ述フレハ

第一ニ決勝ヘ入りタルハ少年組堀田選手ニシテ午後零時五十二分所要時間二時間四十四分三十二秒、最モ遅レテ入りタルハ青年組笠置選手ニシテ午後二時三十分所要時間三時間五十四分、此ノ間ニ決勝ニ入りタルモノ十八軒リレースニテ十一名最高記録ハ青年組二時間十七分五十三秒少年組二時間三十六分二十三秒右ノ外五十軒選手三名ハ全部十八キロコースヲ終ヘ殘

五、遭難救護狀況

ノコースニ移リ一着ハ三時間三十六分最モ遅レタルハ四時間四十五分午後二時四十七分決勝ニ入りタリ。距離競走選手出發シ際ニハ天候恢復陽光ヲモ見得タルカ十一時半頃ヨリ盛ニ降雪アリ五百米ヲ隔タル合圍川赤旗ノ見通シ困難ナル程度ナリシモ約三十分位ニシテ小止ミトナリタルヲ以テ山上ノ選手ノ困難ハ之ヲ想像シタルモ遭難ニ至ル程ノコトハナキモノト考ヘ男子廻轉競技ヲ此間ニ行ヒ次イテ女子滑降ニ移リタリ。然ルニ午後二時半頃決勝点ニ歸リタル者途中棄權シタル者ヒユツテニ遭難中ノ者等ヲ調査シタルニ初メ十一名不明ナリシカ間モナクゴールニ入りタル者一名三名近道ヲシテ途中ヨリ歸リ、文字山ニ二名居ルモ選手ヨリ聞キ係員急行ニテ連レ戻リタリ。残り五名中後高山ニテ二名遭難セルコトヲ坂野監察員ノ急報ニ依リ知リ次イテ二名ハ監察員ニ連レラレテ戻リ残り一名木谷選手ノミ行方依然トシテ不明ナリシヲ以テ各方面ニ搜索中山上氏ノ急報ヲ二中選手カ大會本部ニ傳ヘタリ

坂野監察員ニヨリ午後三時頃小西、井關兩選手遭難ノ報ヲ聞クヤ、大會本部ニテハ直ニ救護隊寺田、中田、角三氏外人夫四名ヲ後谷道ヨリ急派ス四時半頃現場ニ到着、更ニ三時半頃辻、不動寺二氏ヲ後谷道ヨリ現場ニ向ハセ五時半頃ニ到着ス、尙坂野氏ヲY字形スロープニ連絡員トシテ派ス、然ルニ八時頃不動寺氏救護ノ困難ヲ報シ來リタルハ鶴來町消防組、青年團員等二十餘名ト八幡區ヨリノ十餘名トヲ十時頃後谷道ヨリ現場ニ救援ノ爲メ赴カシム、木谷選手ニ付テハ八幡附近ニテ遭難ノ報ヲ上山氏ヨリ聞キタルニ中生徒二名ハ直ニ大會本部ニ急報シ(午後四時頃)タルヲ以テ大會本部ニテハ井川氏ヲシテ人夫一名ヲ連レ燈火及食糧ヲ持チ先發センメ次イテ五時頃八幡區ヨリ人夫六名食糧防寒具ヲ持チ出發シ同八時半頃監察員ヲリイダートシ青年團四名人夫六名松火ヲ持チ出發同十時半頃鶴來町在郷軍人十三名出發シ翌午前一時半頃役員吉田、北野兩氏ハ鶴來在郷軍人十名ト出發シタリ

小西、井關兩選手遭難救護狀況

坂野監察員(第三關門分擔)ハ後レタル選手ヲ氣遣ヒ、第二關門ノ方向ニ巡察中午後二時半頃一名ノ青年組選手カ二名ノ選手ノ倒レ居ルヲ傳ヘタルハ急キ其ノ現場ニ到着シタルニ右ハ小西及井關ノ兩選手ニシテ兩選手共スキーヲ脱シ居リ疲勞甚タシ

ク小西選手ハ意識不明井關選手ハ意識ハアレットモ身体ノ自由全ク利カサル状態ナリ。依ツテ直チニ他ノ監察員ヲ呼ビ同時ニコ
 ー附近ニスキー練習中ノ鷗來スキークラブ員小島、井口、上田其ノ他二名モ急ヲ聞キ馳セツケ水ヲ與ヘ又食料ヲ與ヘントシ
 タルモ口ニ入ラス直チニ上衣セーター等ヲ被ヒ暖ヲ與ヘ二人ヲヒユツテニ運ハントシ背負タルモ新雪數尺ニテ下方ノ小木ノ根
 元空虚ヲナシ腰迄モ埋レ歩行全ク困難ニテ運フコトヲ得ス依テスキーニテ急造ノ擔架ヲ作り數名ニテ運ハントセシモ能ハス更
 ニスキーヲ組合セテ橋ヲ作り引カントセシモ雪深ク埋レ且此ノ土地凹地ニテ何レニ運フモ登リ路ニテ登ルコトヲ得ス。之ヨリ
 先坂野隊員ハ三時頃急ヲ本部ニ傳ヘタルヲ以テ直チニ急派シタル救護隊ト協力シテ人工呼吸ヲナシ或ハ膝ニノセテ摩擦ヲナシ
 救護ニ努ム。然ルニ夕闇ト共ニ吹雪ト寒氣ハ益々募リ救護者ハ疲勞ト寒氣ノ爲メ危險ニ瀕シ中田監察員ハ終ニ倒レ周章辻走路
 員ハ中田ヲ救護シテ本部ニ連レ歸ル等救護隊ノ困難驗ヘン方ナシ斯クテ大會本部ニテハ青年團、在郷軍人分會、消防組中ノ壯
 者ヲ選拔シ救護隊ヲ組織シ八幡ヨリノ救護隊ト共ニ現場ニ急派ス此ノ救護隊四十餘名ハ「輪カンヂキ」ニテ新雪ヲ踏ミ堅メナカ
 ラ漸ク現場ニ到着シ二選手ヲ運ヒ翌午前二時八幡ニ下リ午前二時半小原ノ石野氏宅ニ着藤本醫師ノ診察並ニ手當其ノ他百方手
 ナ盡シタルモ何等ノ反應ナシ。次テ辻醫師ノ診察ニヨリ最早絶望ノ外ナキヲ知り午前九時三十分ノ電車ニテ自宅ニ收容セリ。

木谷選手遭難救護狀況

木谷選手ハ他ノ選手ノ大部分通過後一時半頃一人後レテ第二關門ヲ通過シタルヲ以テ監察員館氏ハ「大丈夫カ」ト問ヒシ
 ニ「大丈夫」ト應答シテ進ミタルニ依リ同選手ヲ見送リタル後他ニ後レタル選手ナキカラ案シ第一關門ノ方ニ巡察ヲナシ下山
 シ其ノ旨本部ニ報告セリ。然ルニ木谷選手ハ第二關門通過後猛烈ナル吹雪ノ襲來ト疲勞ノ爲メ第二關門ノ西方ノ雪中ニ倒レタ
 ルヲ當日偶々登山シタル上山氏ニ發見セラレ。時既ニ空腹ト寒氣ノ爲メ体力ノ續カサルヲ告ケタルニヨリ同氏ハ極力救護ニ努
 メタルモ猛吹雪ノ爲メ如何トモナシ難ク自己ノ着衣及携帶ノ食料品ヲ全部與ヘ、リユクサツクニ腰ヲカケサセ現場ヲ去ラサル
 ヤウ告ケテ約二時間ヲ費シテ午後四時頃此ノ報ヲ大會本部ニ傳ヘタリ。此ノ以前大會本部ニテハ木谷選手一名不明ナルヲ以テ
 各方面ニツキ調査中ナリシ故直チニ救護隊ヲ急行セシメ更ニ館氏ヲリーダートシタル救護隊ヲ急派シ上山氏ノ告ケタル場所搜
 索シタルモ猛烈ナル吹雪ノ爲メ發見スル事ヲ得ス。更ニ八幡區民、消防隊在郷軍人分會員等相次イテ出發搜索シタルモ途ニ發
 見スルコト能ハス三十日午前四時再ヒ搜索隊ヲ組織出發更ニ二中及ヒ西園役員長ノ引率スルスキー隊モ出發シタルカ先發搜索
 隊ニ依リ午前七時三十分第二關門ノ西方約一軒ノ地点ニ於テ發見セラレタリ、但シ附近ニテ上山氏ノリュクサツク及木谷選手
 ノスキー發見セラレス。斯クテ直チニ同選手ヲ河内村小原區長宅ニ運ヒ辻醫師ノ診察ヲ受ケタルニ既ニ手當ノ施ス術モナク午
 後零時十六分電車ニテ自宅ニ收容セリ。

スキ—規定

總 則

(昭和六年八月全日本スキー聯盟改定)

第一條 役員は役員長一名、デイスタンスレース係長一名、ジャムプ係長一名を置き各係長の下に更に若干の役員を
 置く

役員長は實際の競技に關し規定の明文により決定し能はざる總ての疑義を決定す而して其決定は最終にして抗議すること
 を得ず

二名以上の役員ある場合は其中一名を主任とす

第二條 競技種目は長距離競走、單距離競走、複合競走、リレーレース及びジャムプ競技の五種目とす

第三條 役員及新聞雜誌記者の特に許されたる者を除くの外は如何なる人と雖も競走路及競技に妨害となる地點に入る
 ことを得ず

自己の加入以外の競技に際しては競技者もまた同様なりとす役員及新聞雜誌社の代表者は徽章を帶ぶべし競技者は競技番號
 標を胸背に懸ぐべきものとす

デイスタンスレース

第四條 長距離競走は三十キロメートル乃至五十キロメートル、短距離競走は十五キロメートル乃至十八キロメー
 ルとす、但し長距離競走は満二十歳以上の者に限る

第五條 競技役員を次の如く定む、係長一名、召集員二名、出發合圍員二名、走路員四名以上、監察員四名以上、通

信員若干名、通告員二名以上、計時員三名、決勝審判員三名、記録員三名、補助記録員若干名、醫師一名
 係長は全係員を指揮して競技を進行せしめ係員の報告を受けてこれを役員長に報告す
 召集員は加入競技者の姓名及番號を記入せる名簿を所持し各競技の開始前少くとも十分前加入競技者に競技開始の豫告をなすべし

競技役員は豫め抽籤により競技者の出發順位を定めその結果を記録員に報告すべし

出發合圖員は出發線上に於ける競技者に対して召集員の權限外に屬する總ての權限を有し又競技者が出發の合圖前出發線を超えたるや否やに關しては唯一の判定者たるものとす

出發合圖員は召集員により競技者が出發線につかしまれたる時は直ちに競技を開始するの責任を有す

走路員は走路の完全を期するため走路の踏査及び整理をなし之が管理に當るものとす

監察員は各種の規則違反を係長に通知するものとす

通信員は會場走路間の通信聯絡をなし種々の事項を係長に報告すべし

通告員は競技の進行に關する種々の事項を場内に通告すべく發聲又は掲示等に據りて之をなす通告すべき事項は係長之を交付す

計時員は各競技に對して一名を置き他に一名の補助員を置く但し同時出發の時は三名の計時員を置き二個の時計一致し他の一個が之に一致せざる場合は前二個の時計の示せる時を以て正式の時間とし三個の時計總て一致せざる場合は中間の時を示せる時間を以て正式とす

時は號砲の閃光により之を取る

決勝審判員は決勝線に張れる横紐の一方に二名他方に一名立ち競技者の決勝線に入りたる順序を認定す競技者の決勝線に入りたる順序に關して審判員の意見一致せざる場合は多數決とす

審判員の決定せる順序は最終にして抗議することを得ず記録員は競技に關する一切の記録をなすものとす
 醫師は各競技者の健康診断を行ふ

デイスタンスレースにありては走路の一ヶ所乃至適當なる箇所にて各選手の所要時間を計測し後刻參考の爲發表するものとす

第六條 係長より用意成るの報告を受けたる時は出發合圖員は直ちに競技者を出發線につかしむべし但し出發線上に整列する必要ある時は出發線上に足部を並列せしめて之を行ふ
 出發の合圖は次の如くす

(一)十秒、(二)五秒、(三)用意、(四)號聲又は記號

この際出發合圖員は閃光が容易に計時員に見得る様發砲するを要す雷管不發の場合にはこれを出發の合圖とせず出發の號聲前出發しまたは出發せんとしたる者ある時は不正の出發とす

不正なる出發の行はれたりと出發合圖員において認めたる時は假令合圖の發砲後と雖もなほ一回の發砲を以て競技を中止せしむ不正の出發二回におよびたるものは該競技より除名す

第七條 競技者出發の順位は抽籤を以て定め各競技者をして一定時隔に一人宛出發せしむるを原則とす但し競技場の都合により二名宛或は全部同時に出發せしむることあるべしこの場合出發線上における順位は滑走方面に向ひて最左側にあるものを一番とし以下順次右方に及ぶものとす

第八條 競技中後走者は前走者との距離二メートル以内(スキーの間隔)に接近し超走の目的を以て適當なる發聲「バインフライ」を發する事を得、前走者が後走者の發聲を受けたる時は之に對し走路を譲るべきものとす

第九條 係長において競技中次の各項の一に該當する行爲ありと認めたる時は其競技者を該競技より除名す
 (一)他競技者を超走するの目的を以て故意に他の競技者の身體、スキー又は杖に觸れたるとき
 (二)第八條の規定に違背したるとき

(三)他の競技者が超走せんとするに際しこれを妨害する目的を以て身體スキー又は杖を用ひてその進路を妨げまたは妨げんとしたるとき

(四)他の競技者の前を滑走し故意に速度を緩め其の競技者の競技を妨げ又は妨げんとしたるとき
 (五)他の助力により不正の競技をなしたるとき

(六) 競技者自らの他の競技者の應援をなしたるとき

第一〇條 競走路兩側の決勝柱を聯絡して雪面に引ける線を以て決勝線とし競技者はその線を含む平面を完全に通過せざるべからず

審判品の判定を便ならしむるため雪面上、二メートル(四フィート)の所に白横紐を張る横紐は兩決勝柱に結着せしめ走路の方向に直角にして地表に平行なるを要す

同時出發の場合はこの横紐に最初觸れたる者を以て一着とし以下決勝線を通過したる順序を以て着順を定む
競技者が横紐に觸るゝは必ず胸を以てし手を以てこれを攫むを許さず、又決勝線を通過したるや否やはスキーの先端によらず足部を以てこれを定む

第一一條 競技者は必ず所定の地點を通過すべし

第一二條 所要時間の最短なる者を以て優勝者とす

第一三條 優勝者二名以上生せる場合と雖も再競技を行はず所要時間同一のものは同順位とす

第一四條 競技者は出發當時のスキー及び杖を以て競技を終始すべく破損せる場合は各一方に限りこれを取換ふる事を得

第一五條 競技開始前係員は競技用スキー及び杖の點檢を行ふ

第一六條 競技者は次記以外のスキー用具を携帯することを得ず (イ) 縮具用革 (ロ) スパナー (ハ) ナイフ (ニ) 蠟

第一七條 走路は平地及び適當なる登行、下降の三斜面を平等に含むを原則とす

第一八條 出發點と決勝點とは同一地點の平地或は標高に置くべきものとす特別の場合に限り出發點を決勝點より高處に置くことを得

多數の競技者が同時に出發する際は出發點より約一〇〇メートル以上の平地或はこれに近き斜面を選ぶものとす

第一九條 走路は赤旗を以て示し注意を要す地點には黄旗を立つるものとす

第二〇條 走路の距離決定は陸軍陸地測量部(五萬分の一)の縮圖上にて決定す

第二一條 召集醫師診察出發番號授與競走路區間に關する説明は可及的競技前日午後乃至は夕刻之を行ふ、競技者は自ら出席するを要し或は又該所に代理者を出席せしむるを要す

複合競技、リレーレース、ジャムプ競技、附録軍隊競走規定、全日本スキー選手權大會規定(省略)

第四回近縣スキー競技會、全日本スキー大會石川豫選

總裁 山口安憲、會長 辻 利吉、副會長 村田八十穂、松尾佐久郎、役員長 西園富吉、

距離競走審判員

召集員 大崎 篤、出發合圖員 大賀重禧、走路員 距王 高木 豊、辻 繁吉、米永仁作、中川 淳、寺田治一、伊藤勝二
監察員 加藤外喜男、吉田外喜治、中田三守、坂野一幸、北野幸一、館 榮一、計時員 藤岡秀光、瓜生省一
決勝審判員 盛一佐八郎、中村 稔、記録員 長谷川勇二、通信員 新田徳次、救護員 辻 一 次

飛躍競技審判員

測尺員 飛王 目名好、宮川小一、飛型員 彼島榮順、赤井久雄、竹内幸二、斜面員 針道新次、森與三郎
團外員 井川嘉喜男、合圖員 老田友吉

回轉競技滑降競技審判員

決勝審判員 回王 宮城茂雄、召集員 湯村 清、出發合圖員 上野菊雄、計時員 萩田拾雄、作本秀雄、北田政五郎
記録員 廣瀬一二、監察員 川上市次郎

大 會 本 部

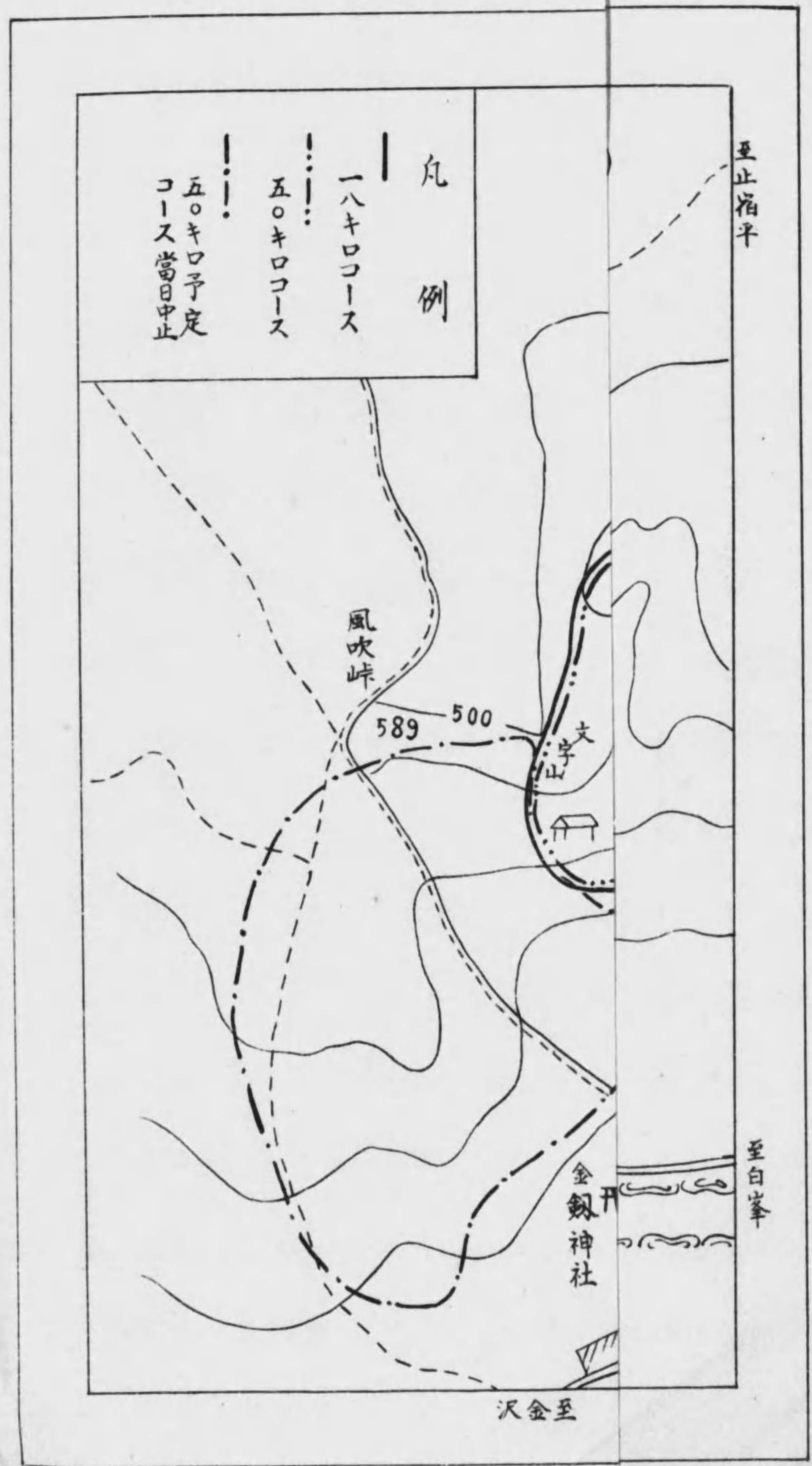
總務員 波佐谷龍華、岩地外松、總記録員 釜田由松、北村清次、山口外雄、石富次弘、接待員 澤村佐太吉、伊藤房子、

片山秀造、白井清

大會傳令員

村野春雄、宮下吉次

スキー遭難事件記録 (完)

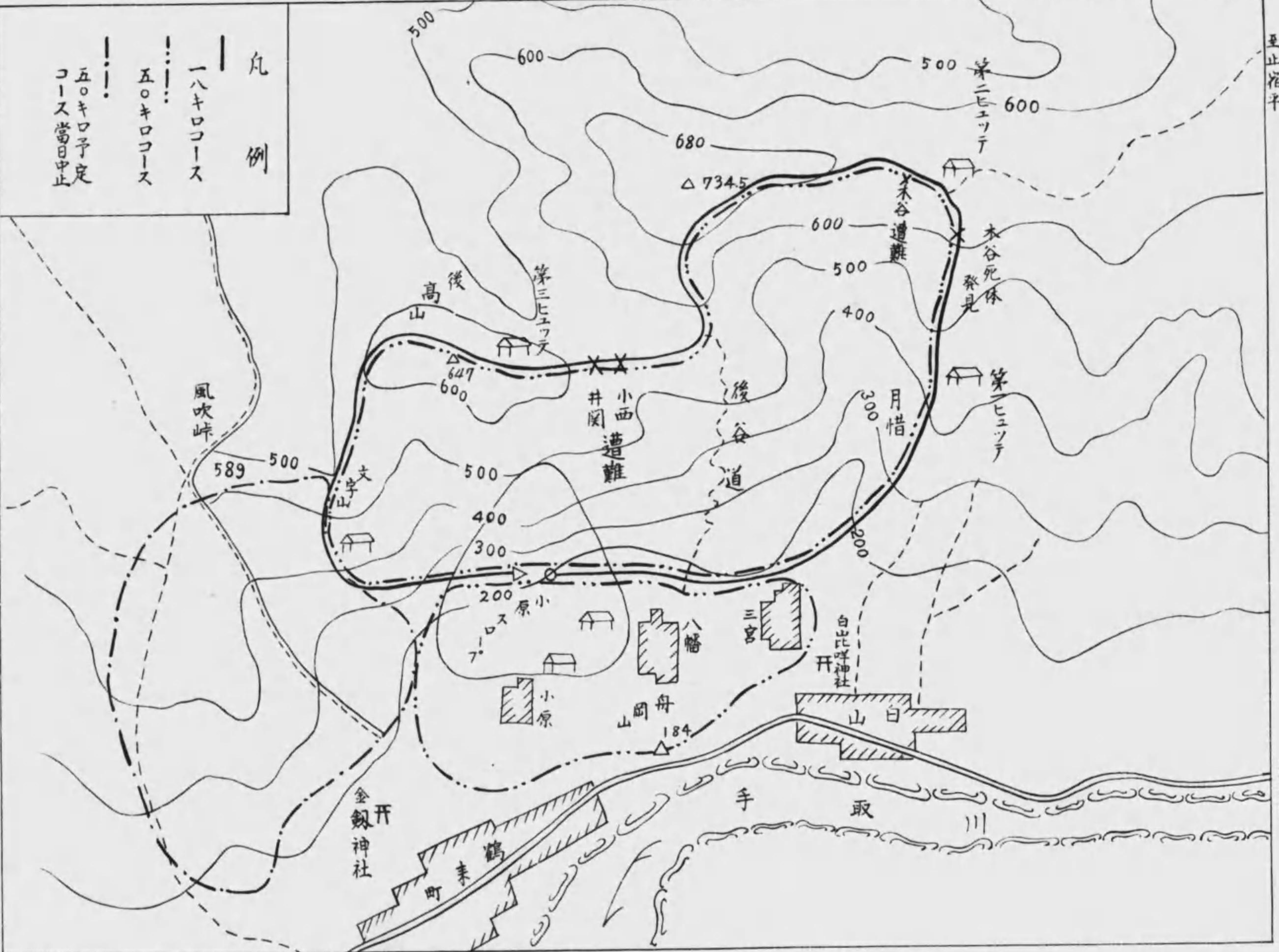


凡例

—— 一八キロコース

--- 五〇キロコース

--- 五〇キロ予定コース當日中止



至白峯

至金至

至金至



昭和八年二月二十四日印刷
昭和八年二月二十八日發行

非賣品

編輯者 金澤辯護士會

右代表者 金澤市梅本町東横丁四番地ノ一、二合併
齋藤彌生

印刷者 金澤市横傳馬町十七番地
高桑勘治

印刷所 金澤市横傳馬町十七番地
高桑印刷所
電話三〇二八番

終

